

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社FRONTEO

証券コード 2158

2025年6月24日



1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
5. 事業概要
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

※本資料内では、以下の定義に基づいて記載しております。

FY22：2023年3月期 FY23：2024年3月期 FY24：2025年3月期 FY25：2026年3月期  
1Q：4~6月期 2Q：7~9月期 3Q：10~12月期 4Q：1~3月期

1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
5. 事業概要
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

# 1. 会社概要

会社名：	株式会社FRONTEO
上場証券取引所：	東京証券取引所グロース市場（証券コード：2158）
代表取締役社長：	守本 正宏
設立年月日：	2003年8月8日
資本金：	899,176千円（2025年3月31日時点）
従業員数(連結)：	206人（2025年3月31日時点）
事業内容：	<p>自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援  <small>（ライフサイエンスAI事業 / リスクマネジメント事業&lt;ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野/リーガルテックAI分野/経済安全保障分野&gt;          /DX事業&lt;ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野/株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野&gt;）</small></p>
主要取引先：	<p>民間企業（化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など）          官公庁（法執行機関・各種監視委員会）、国内外法律事務所、医療機関</p>

## Global Offices



1. 会社概要
- 2. 企業理念**
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
5. 事業概要
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

# FRONTEO Bright Value

記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、  
情報社会のフェアネスを実現します。

1. 会社概要
2. 企業理念
- 3. 業績ハイライト**
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
5. 事業概要
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

### 3. 2025年3月期 通期決算ハイライト - ①

- FY24の会計期間内において、2度の連結営業利益の上方修正を行い、前期の営業赤字から+712百万円の大幅増益を実現し**527百万円**で着地
- AIソリューション事業がリーガルテックAI事業のセグメント利益を上回り、**順調に事業転換が進行**
- 成長分野である**AIソリューション事業（特にライフサイエンスAI分野）**への投資を継続

全体	AIソリューション事業	リーガルテックAI事業
<p><b>連結売上高</b></p> <p><b>6,099百万円</b></p> <p>(前年同期比 : ▲17.3%)</p>	<p><b>売上高</b></p> <p><b>2,607百万円</b></p> <p>(前年同期比 : ▲6.8%)</p>	<p><b>売上高</b></p> <p><b>3,491百万円</b></p> <p>(前年同期比 : ▲23.7%)</p>
<p>* 売上高は前期特殊要因<sup>(1)</sup>を除くと前年同期比+26%成長</p>		
<p><b>連結営業利益</b></p> <p><b>527百万円</b></p> <p>(前年同期比 : +712百万円)</p>	<p><b>営業利益</b></p> <p><b>277百万円</b></p> <p>(前年同期比 : +71.2%)</p>	<p><b>営業利益</b></p> <p><b>249百万円</b></p> <p>(前年同期比 : +597百万円)</p>

(1) ビジネスインテリジェンス分野大型案件ライセンス買取による収益、及びライフサイエンスAI分野AI医療機器契約一時金の一部を計上

### 3. 2025年3月期 通期連結業績 - ②

- 連結営業利益は、リカーリング収益の増加や販管費の適正化の効果もあり大幅増益を達成
- 当期純利益が着実に積み上がり自己資本比率は**45.9%**

#### 連結損益計算書

(百万円)	FY23	FY24	前年同期比	
			増減	変化率
売上高	7,375	6,099	▲1,275	▲17.3%
(AIソリューション事業)	2,797	2,607	▲189	▲6.8%
(リーガルテックAI事業)	4,577	3,491	▲1,085	▲23.7%
売上原価	3,650	2,646	▲1,003	▲27.5%
売上総利益	3,725	3,452	▲272	▲7.3%
販売費及び一般管理費	3,910	2,925	▲985	▲25.2%
営業利益	▲185	527	712	-
(AIソリューション事業)	162	277	115	+71.2%
(リーガルテックAI事業)	▲347	249	597	-
経常利益	▲168	543	711	-
当期純利益	▲2,843	555	3,398	-

#### 連結貸借対照表

(百万円)	24/3	25/3	24/3比	
			増減	変化率
<b>資産の部</b>				
流動資産	4,964	4,003	▲961	▲19.4%
現預金	3,043	2,598	▲444	▲14.6%
売掛金及び契約資産	1,570	1,025	▲544	▲34.7%
貸倒引当金	▲36	▲5	31	-
その他流動資産	387	383	▲3	▲1.0%
有形固定資産	321	299	▲22	▲6.9%
無形固定資産	911	824	▲87	▲9.6%
ソフトウェア	506	432	▲73	▲14.6%
投資その他の資産	1,324	1,340	15	+1.2%
資産合計	7,522	6,466	▲1,056	▲14.0%
<b>負債・純資産の部</b>				
流動負債	3,422	2,844	▲578	▲16.9%
固定負債	1,260	394	▲865	▲68.7%
純資産	2,839	3,227	388	+13.7%
負債・純資産合計	7,522	6,466	▲1,056	▲14.0%

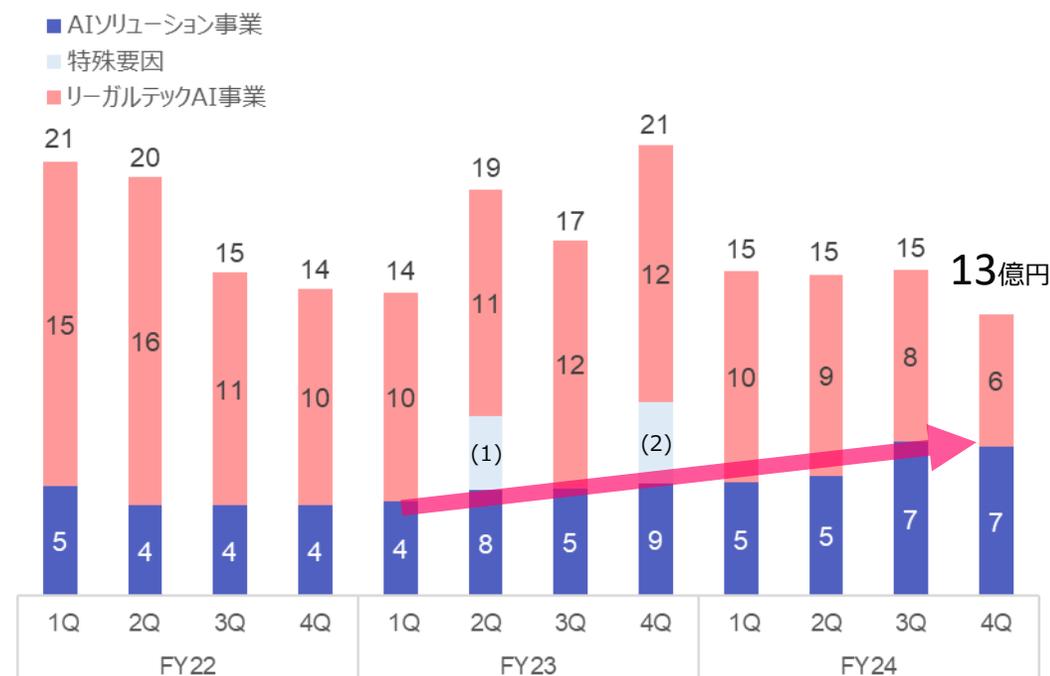
\* 第1四半期連結会計期間より売上区分を見直した結果、一部を従来の「AIソリューション」事業から「リーガルテックAI」事業へ変更

### 3. 売上高・営業利益の推移 - ③

- AIソリューション事業が、FY24 4QでリーガルテックAI事業の売上高を上回り当社の主力事業へと成長
- 昨年からの全社コストの最適化により、連結業績における損益分岐点が大幅に改善し、営業利益は3期ぶりに通期黒字を達成

#### 売上高

(億円)



#### 営業利益

(億円)

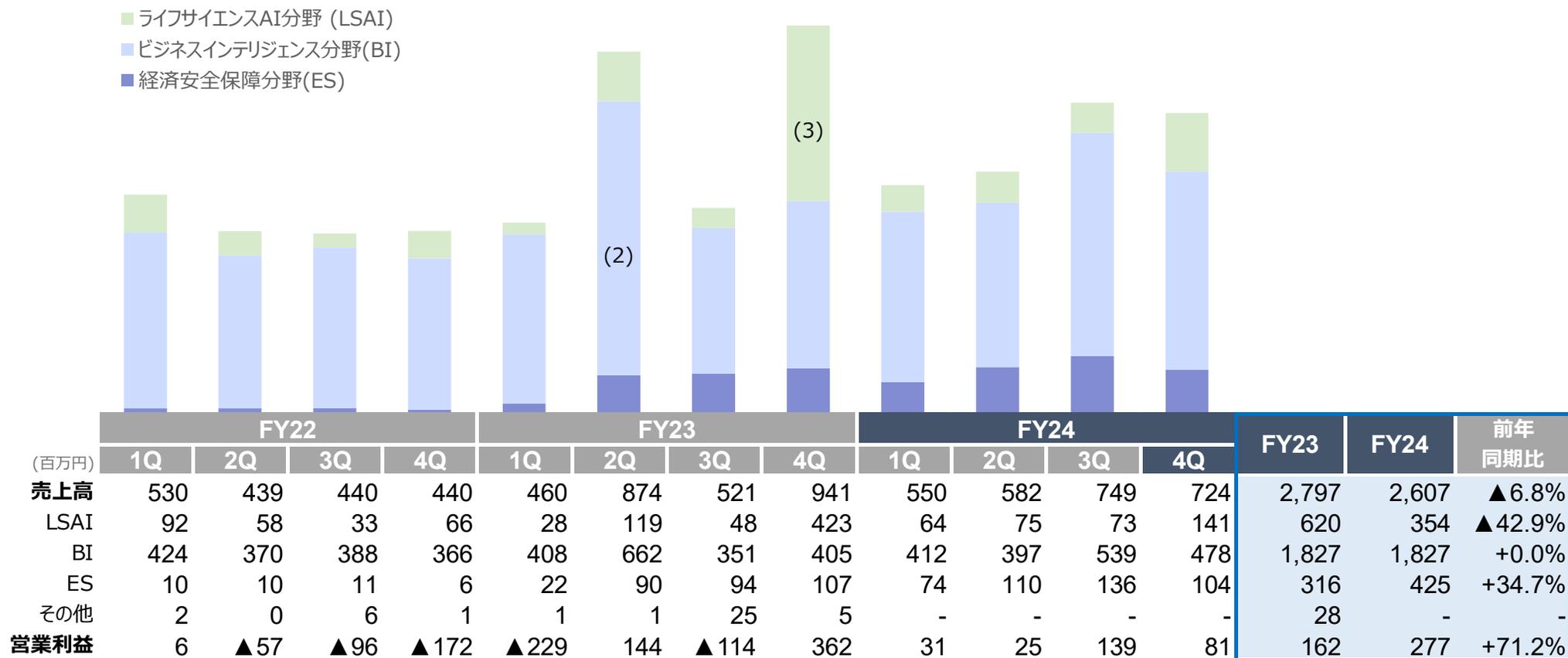


(1) ビジネスインテリジェンス分野大型案件ライセンス買取による収益を一括計上 (2) ライフサイエンスAI分野AI医療機器契約一時金の一部を計上

\* 第1四半期連結会計期間より売上区分を見直した結果、一部を従来の「AIソリューション」事業から「リーガルテックAI」事業へ変更

### 3. AIソリューション事業 売上高・営業利益推移 - ④

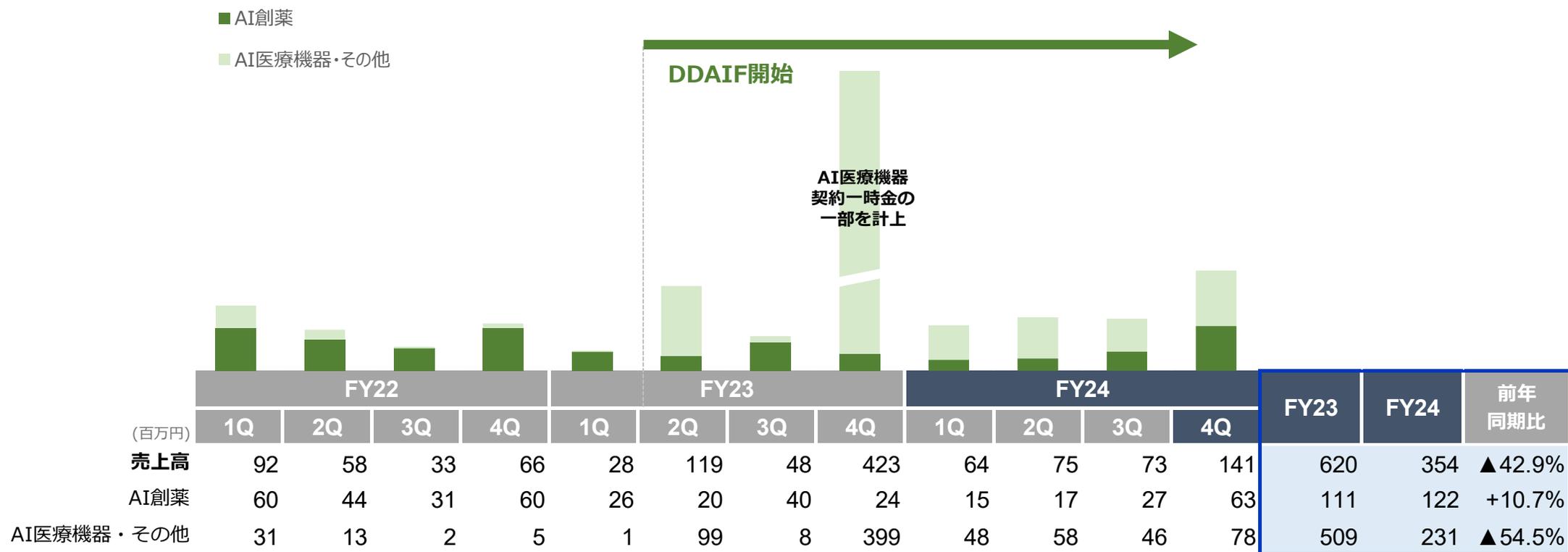
- 売上高は社内計画通り下期偏重で推移し、**通期累計で26%の成長**（前期特殊要因<sup>(1)</sup>を除く）
- **営業利益は前年比+71.2%と大幅に増加し277百万円で着地**



(1) ビジネスインテリジェンス分野大型案件ライセンス買取による収益、及びライフサイエンスAI分野AI医療機器契約一時金の一部を計上 (2) 大型案件ライセンス買取による収益を一括計上  
 (3) AI医療機器契約一時金の一部を計上 \* 第1四半期連結会計期間より売上区分を見直した結果、一部を従来の「AIソリューション」事業から「リーガルテックAI」事業へ変更

### 3. AIソリューション事業 分野別売上高推移（ライフサイエンスAI分野） - ⑤

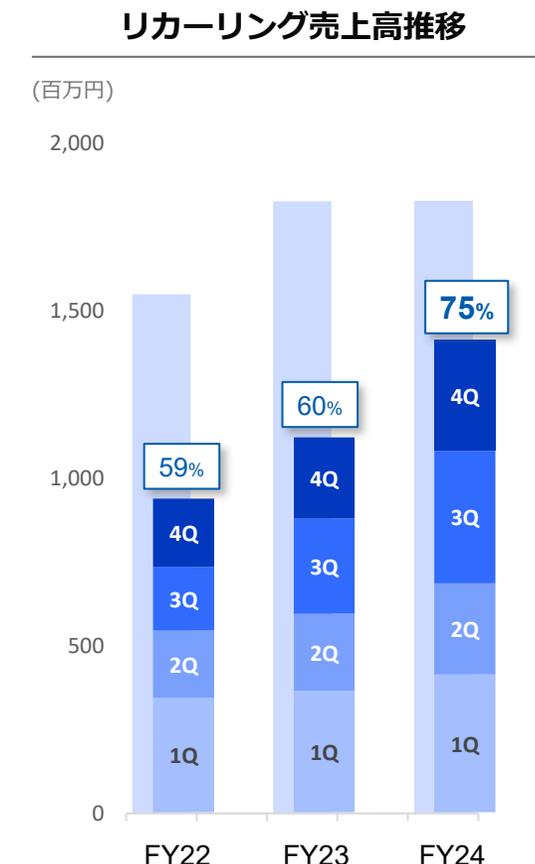
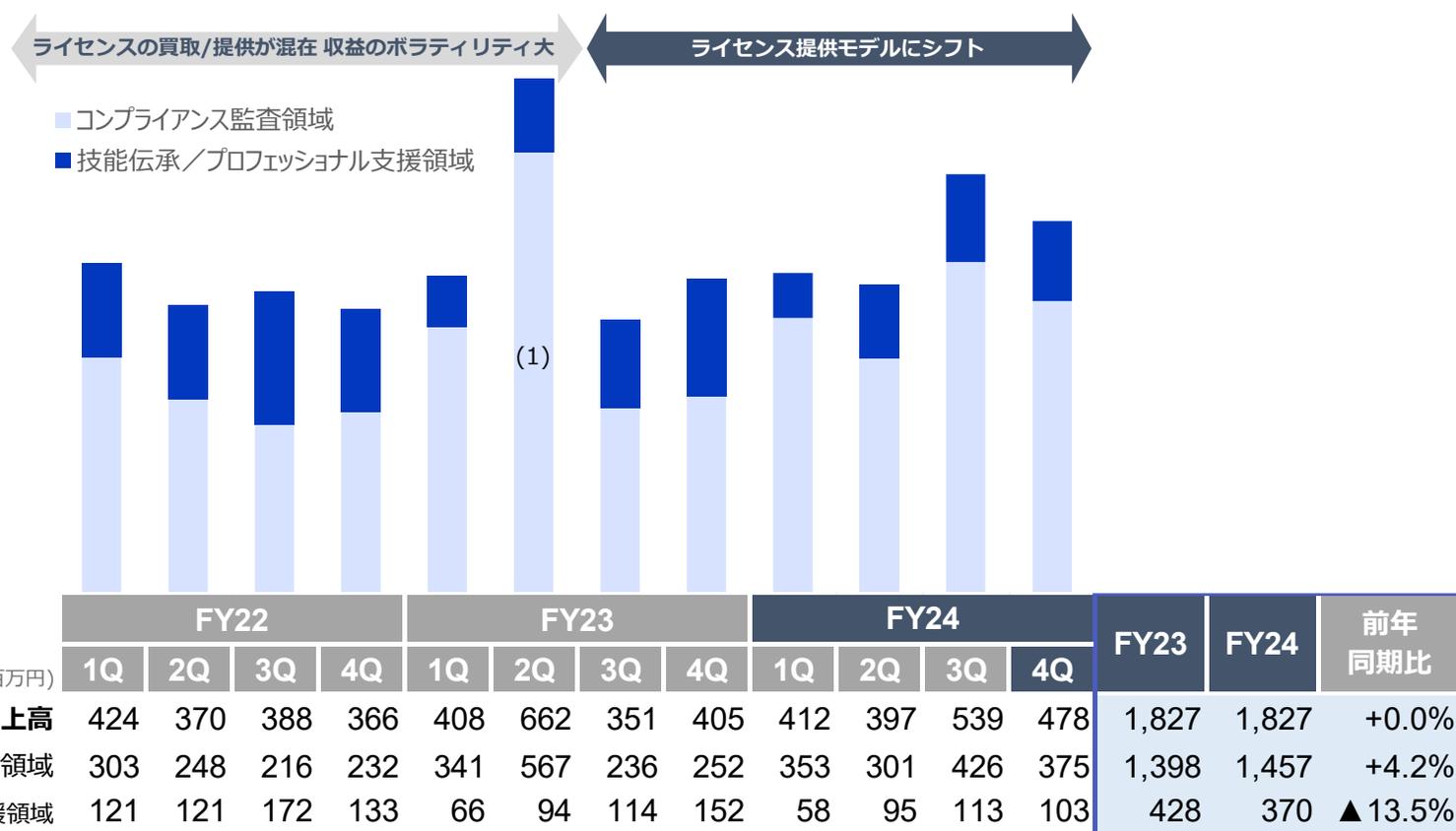
- **AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(DDAIF)」**は、UBE、丸石製薬、エーザイ、EAファーマ、中外製薬等の大手製薬企業とプロジェクトを開始するなど、**共創プロジェクト\*案件**を着実に積み上げ、**KPI3件（FY24）**を大幅に上回る形で**7件成約済み**
- AI医療機器において、塩野義製薬との共同開発「**会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器（SDS-881）**」は、厚生労働省より「**プログラム医療機器に係る優先審査対象品目**」の指定を受け、**PMDA \*\*に治験届の提出が完了。2026年度の承認取得へ向けて順調に進捗**



\* 共創プロジェクトとは、製薬企業等の共創パートナーと当社の研究チームが協調し新規標的探索や適応症の探索、バイオマーカー探索等、個別の研究開発を実施する形態 \*\* 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

### 3. AIソリューション事業 ビジネスインテリジェンス分野 分野別売上高・リカーリング推移 - ⑥

- 売上高は前年比+19%（前期特殊要因<sup>(1)</sup>を除く）と大幅増収に伴い、リカーリング比率も順調に増加し75%を突破
- コンプライアンス監査領域では、金融機関を中心に不正検知システム「KIBIT Eye」の受注が堅調に推移（5大証券会社への導入実績80%を突破）、既存顧客の用途や導入部門の拡大といった深耕戦略が奏功
- 技能伝承／プロフェッショナル支援領域では、POC・データアセスメントを通じた、建設・製造業における社内ドキュメントデータのAI探索及び価値創出の実績が積み上がり、FY25以降の成長に弾み

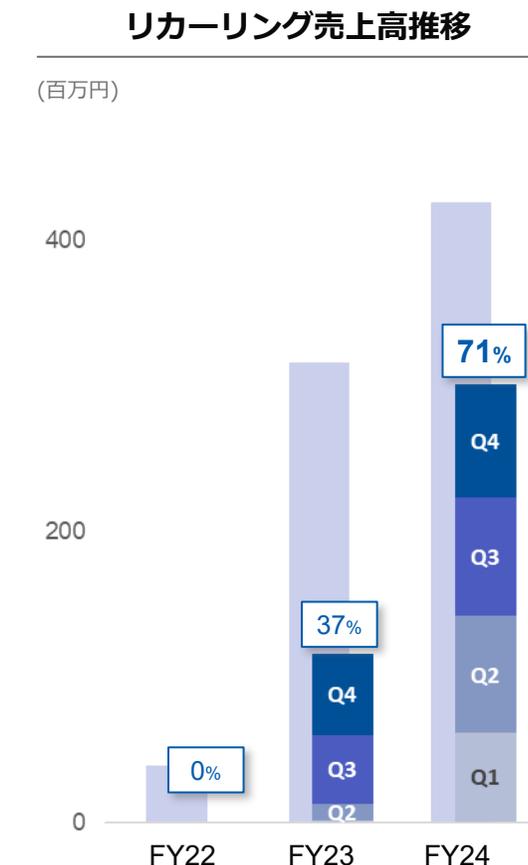
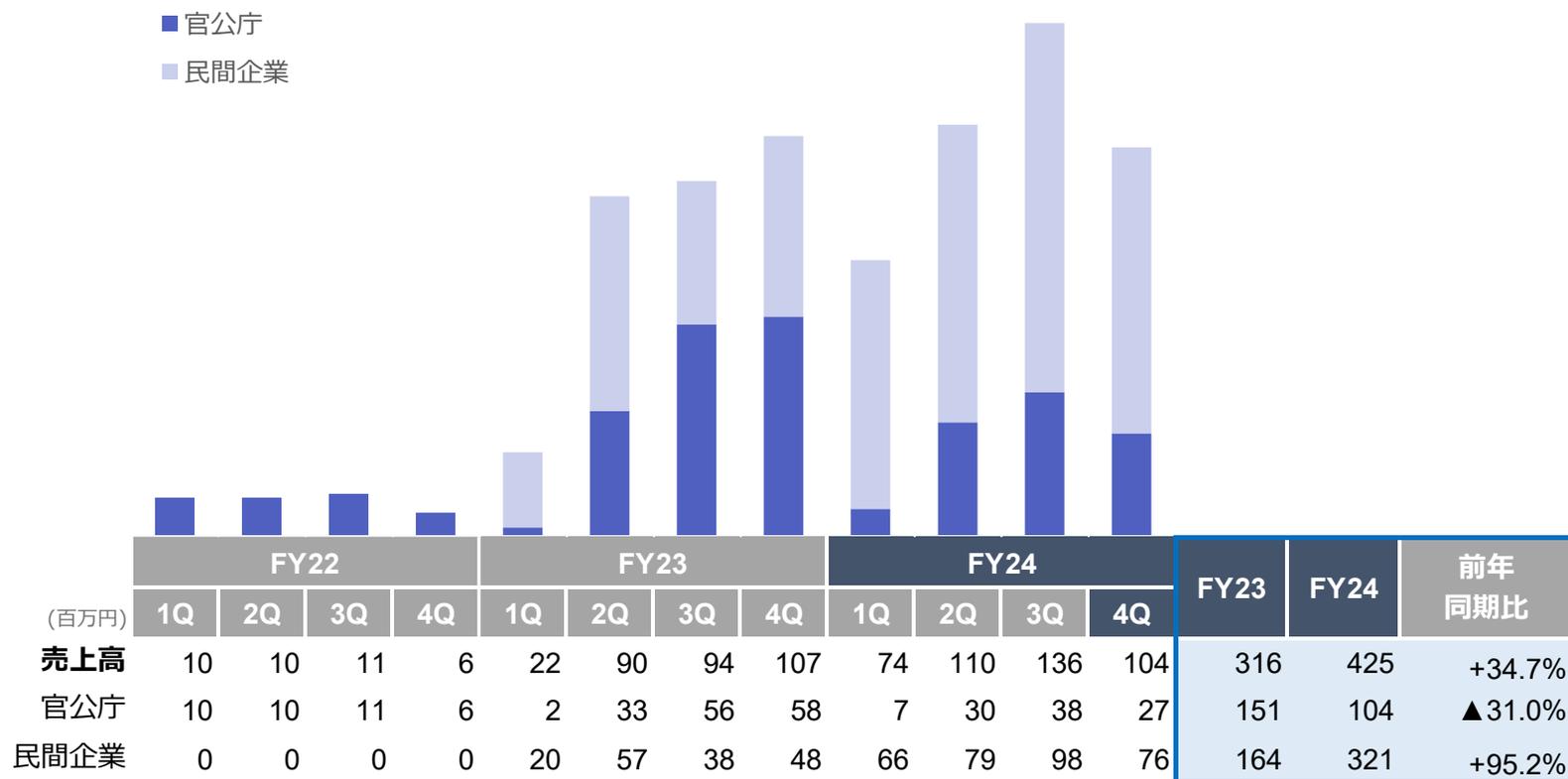


(1) 大型案件ライセンス買取による収益を一括計上

\* 第1四半期連結会計期間より売上区分を見直した結果、一部を従来の「AIソリューション」事業から「リーガルテックAI」事業へ変更

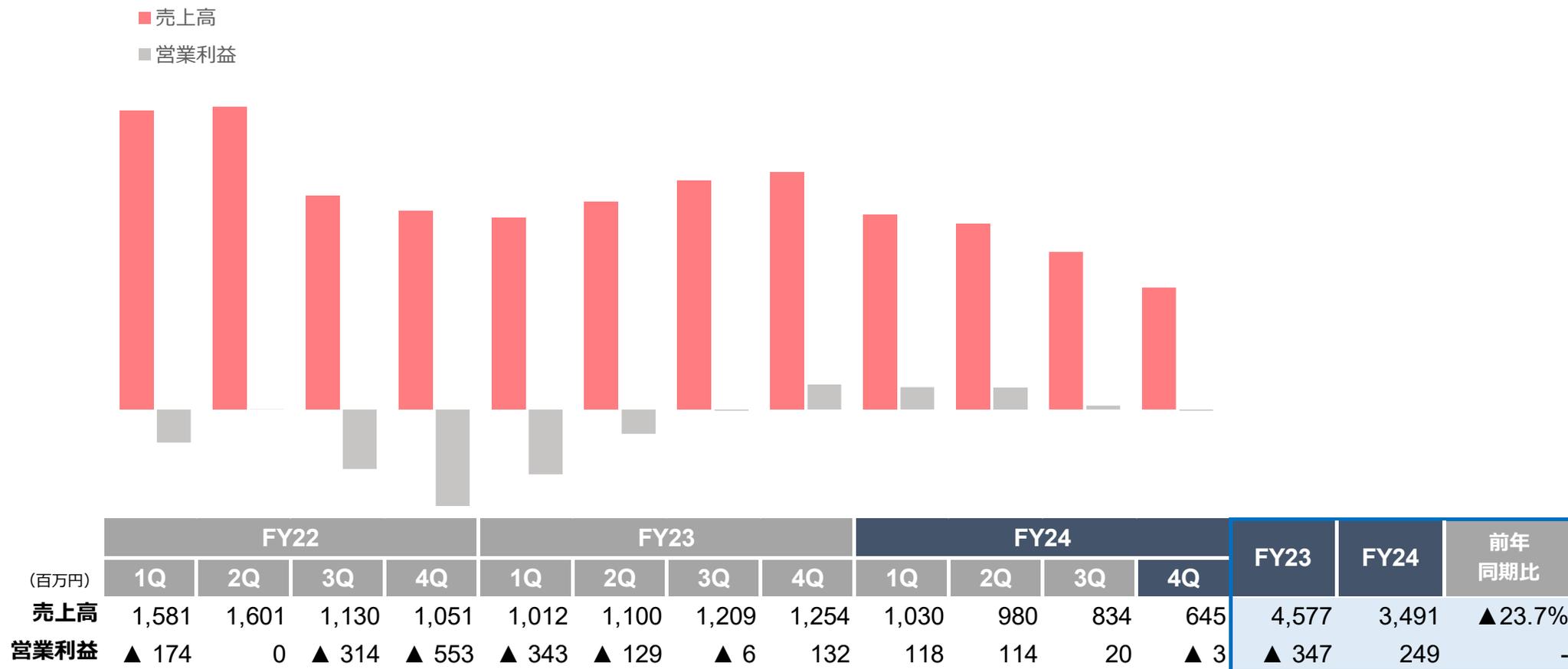
### 3. AIソリューション事業 経済安全保障分野 分野別売上高・リカーリング推移 - ⑦

- 売上高は前年比+34.7%と大幅増収に伴い、リカーリング比率も順調に増加し70%を突破
- 経済安全保障対応のニーズの高まりに加え、経済安全保障対策AIソリューション「KIBIT Seizu Analysis」の機能拡張や市場課題に応じたデータ拡充をした結果、より高精度なソリューション提供が可能になり、民間企業案件については**前年同期比約2倍の成長**



### 3. リーガルテックAI事業 売上高・営業利益推移 - ⑧

- 売上高は前年比▲23.7%で着地した一方、コスト構造の最適化により、営業利益は前年比597百万円増の249百万円となり通期で黒字化を達成
- 4Qは米国子会社のeディスカバリ支援事業からの撤退による売上減少、撤退費用等の計上の影響を受け赤字となったが、国内においては、第三者委員会を含む調査ニーズの高まりを受け、フォレンジック事業分野を中心に堅調に推移
- 国内事業において、クレジットカード情報漏洩における国際的専門調査機関「PFI」の認定を取得するなど、提供サービスを拡充



\* 第1四半期連結会計期間より売上区分を見直した結果、一部を従来の「AIソリューション」事業から「リーガルテックAI」事業へ変更

### 3. 株式会社アルネットの完全子会社化 - ⑨

- 2025年4月30日株式会社アルネット（以下、アルネット）の株式を100%取得し完全子会社化
- 国内製造業では次世代基幹システムへの移行コストの増大が課題となっており、アルネットは Siemens社が提供する「Mendix」※を活用したソリューションで、コスト抑制はもとよりシステムの最適化を実現
- 当社の製造業向けソリューション「匠KIBIT零」との連携で付加価値を創出し、製造業向けDXソリューションの提供領域を拡大予定



A L N E T Z

ソリューション提供領域、製造業向け顧客リスト（カニバリゼーションなし）、  
エンジニアのスキルマッピングにおいて強い補完関係

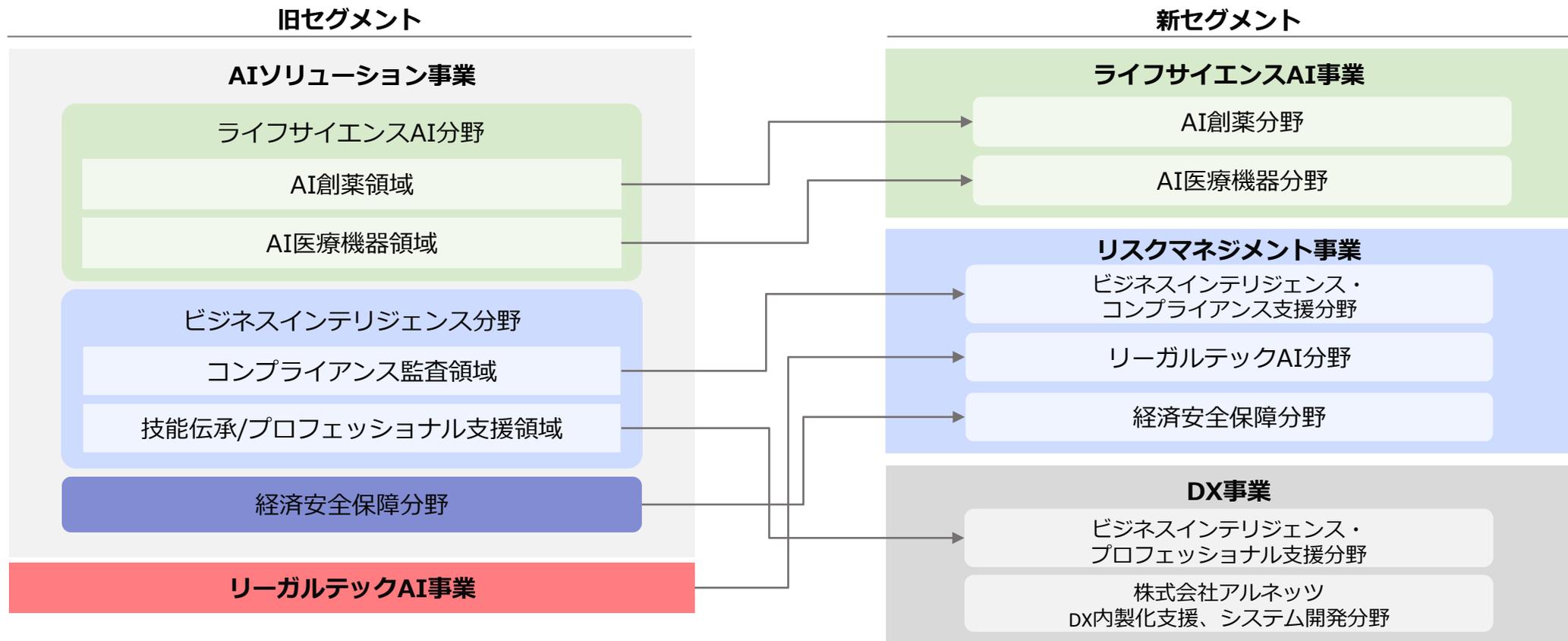
#### 主なシナジー

- 当社が有する「匠KIBIT零」を中心としたデータからの価値抽出技術と、アルネットが有する「Mendix」を中心としたシステムおよびデータ管理のモダナイゼーション技術の組み合わせにより、製造業を中心とした包括的なDX課題の解決、並びに販路拡大を加速
- エンジニアおよび保有技術の融合による、エンジニアリングケイパビリティの拡大、個々のエンジニアのバリューアップを通じた提供価値の向上

\* Mendix : PLM/ERP等のシステムとの連携を含む大規模Web/モバイルアプリケーションの構築、および継続的な改善を可能とする高生産性ローコードプラットフォーム

### 3. セグメント変更について - ⑩

- 2026年3月期（FY25）より、従来のAIソリューション事業とリーガルテックAI事業の旧セグメントから、新たにライフサイエンスAI事業、リスクマネジメント事業、DX事業の3つのセグメントへ再編
- リスクマネジメント事業は、各サービス/ソリューション間の連携を強化し、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」リスクに対し、総合的に対応できる体制を構築
- 製造業向けDXソリューションを提供する、プロフェッショナル支援、アルネッツ（FY25 5月から子会社化）を一体運営し、DX事業の基盤構築とシナジー創出を図る

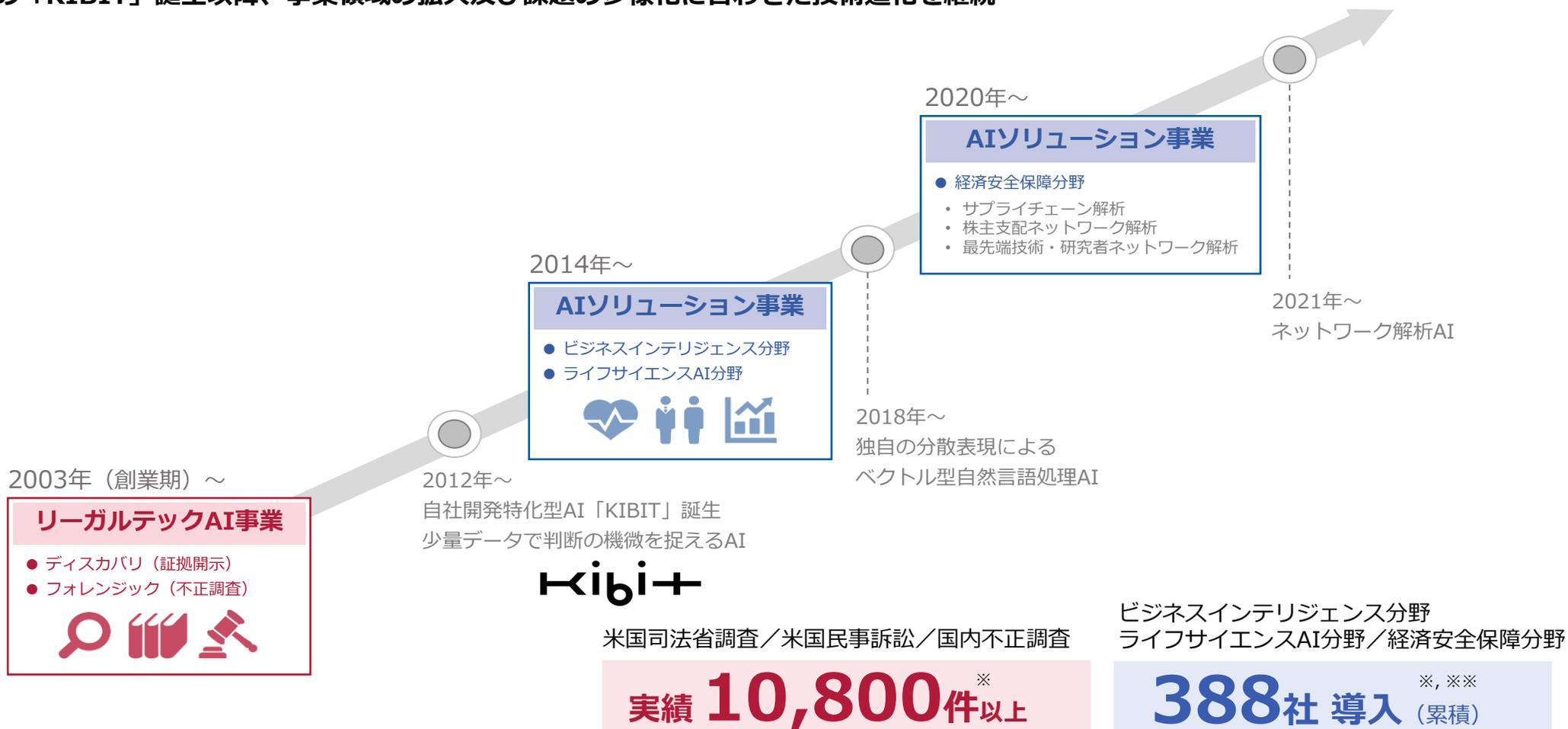


1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
- 4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」**
5. 事業概要
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

## 4. 10年を超えるAI運用実績 - ①

# 特化型AI「KIBIT」を基軸とした当社事業の変遷と実績

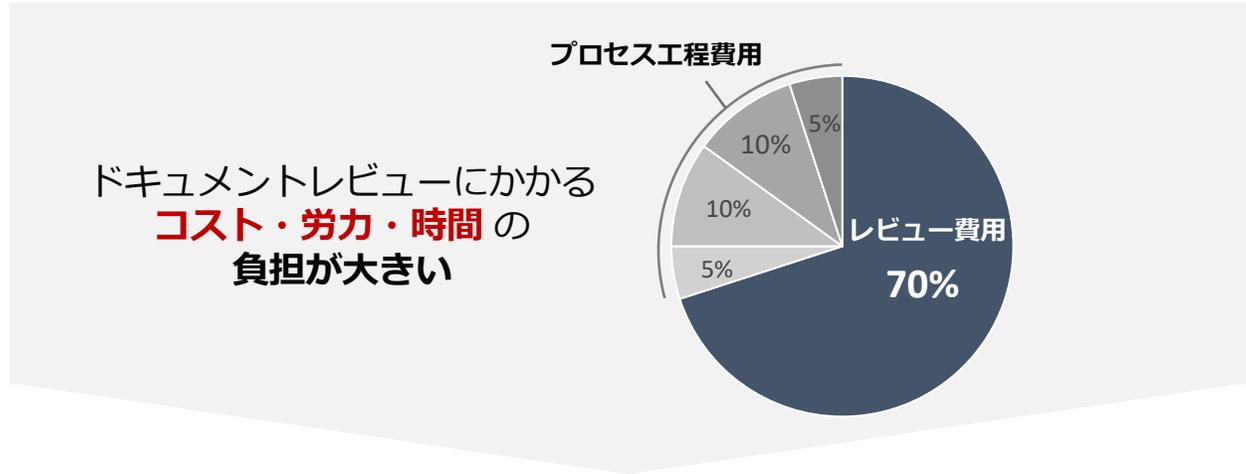
➤ 2012年の「KIBIT」誕生以降、事業領域の拡大及び課題の多様化に合わせた技術進化を継続



※2025年5月30日時点 ※※各製品・サービスの累計導入実績

## 大量の電子データから訴訟に関連しそうな証拠を発掘する独自技術の開発が前身

普通のメール	不正示唆のメール
今日の夜、どうですか？	今日の夜、どうですか？
送信日時： 2023/07/07(金)15:00 宛先： ○○さん	送信日時： 2023/08/08(火)14:30 宛先： ○○さん
○○さん	○○さん
お疲れ様です。○○です。	お世話になってます。●●の○○です。
今日の夜、ご予約ありますか？ 久々に飲みにも行けないかと思いま して。 駅前の居酒屋に8時くらいはどうす か？	最近はいかがですか？ もし良ければ、今日にでも飲みに行きま せんか？ 前回から時間も経っていますし、またお 話できればと思います。 いい個室の居酒屋を見つけたので、そこ にしましょう。 △△さんも誘ったほうがいいですかね。



### AIによるレビューの自動化

自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じて、日夜社会課題と向き合う各分野の専門家を科学的に支援

## 社会課題

訴訟 不正 コンプライアンス 経済安全保障 技能伝承 病気 事故

### 解決の努力

## 専門家

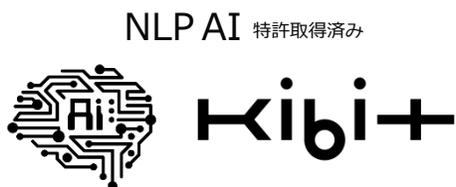
弁護士 犯罪捜査官 特許分析員 創薬研究者 医師 看護師・介護士



自然言語による判断  
(会話、文書、論文)

専門家自らが  
理解する仮説生成

### 判断支援



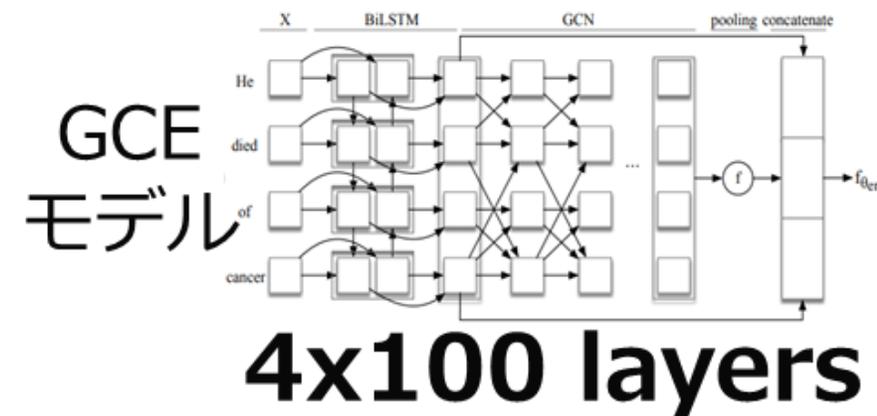
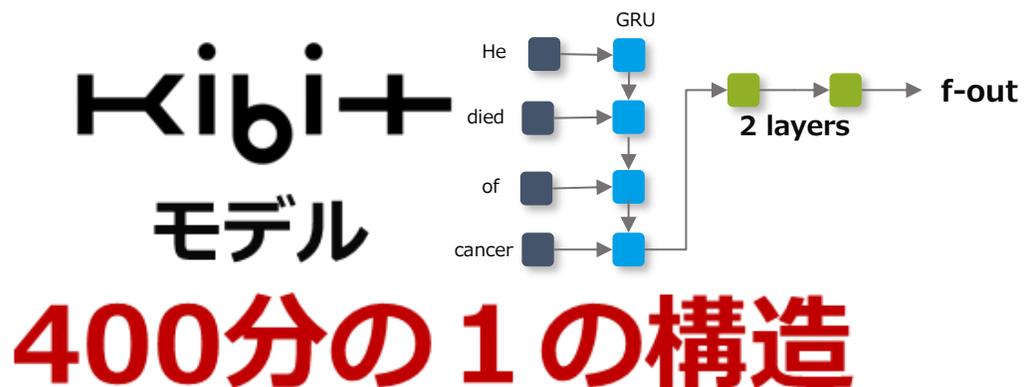
マップ化する技術 (特許取得済み)



## 4. 特化型AI「KIBIT」とは - ④

### 「KIBIT」の特徴

- 自然言語処理、ネットワーク解析に利用可能な軽量・高速・高性能な独自開発AI
- 省電力で環境負荷の小さいGreen microAI
- 少量の教師データでも性能を発揮する独自アルゴリズム搭載
- 判断根拠を直感的にビジュアライズ
- 世界で**85件**の有効特許登録(2025年3月31日時点)



※1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋

※2 日本のCO2排出量及び日本の人口からFRONTEO作成 ※3 ※1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

## 設計思想の違い

### KiBi+

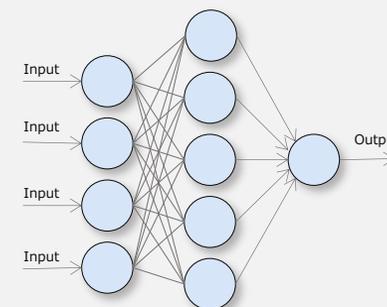
- ・ 人間の子供が新しい言葉を学ぶ過程
- ・ 人が思考を発展させる過程



人の学び、思考過程を創造する

### 一般的なAI

- ・ 人間の脳の神経回路網を数式的なモデルで表現



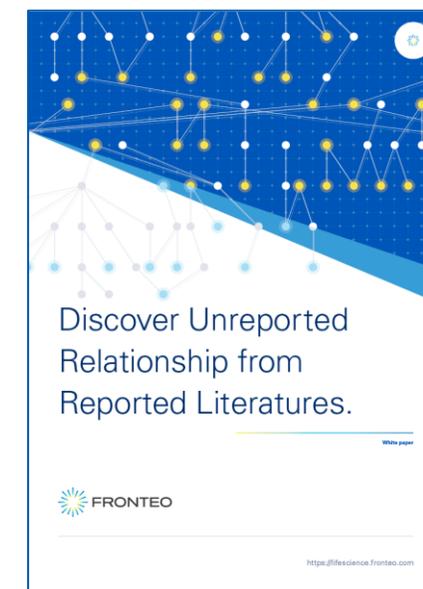
脳(神経ネットワーク)を創造する

## 4. 特化型AI「KIBIT」がもたらす画期的な創薬アプローチに関するホワイトペーパーを公開 - ⑥

- 既知の文献情報から未知の関連性を発見する独自技術を活用した標的探索やドラッグリポジショニング等を支援するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(DDAIF)」を推進
- KIBITが2022年までのシュプリンガーネイチャー掲載文献から予測した未知の創薬標的について、2024年の新しい文献で疾患と遺伝子の関連性が明らかになる



### ホワイトペーパー



URL :  
<https://lifescience.fronteoa.com/whitepaper1>

## 4. 導入企業・機関 - ⑦

### 大手企業を中心に導入

#### 金融機関



#### 製造業



#### 製薬企業



#### サービス業



#### 大学・研究機関



(一部掲載、順不同)  
※2025年6月1日時点

1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
- 5. 事業概要**
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

## 5-i. 事業内容 全体像 - ①

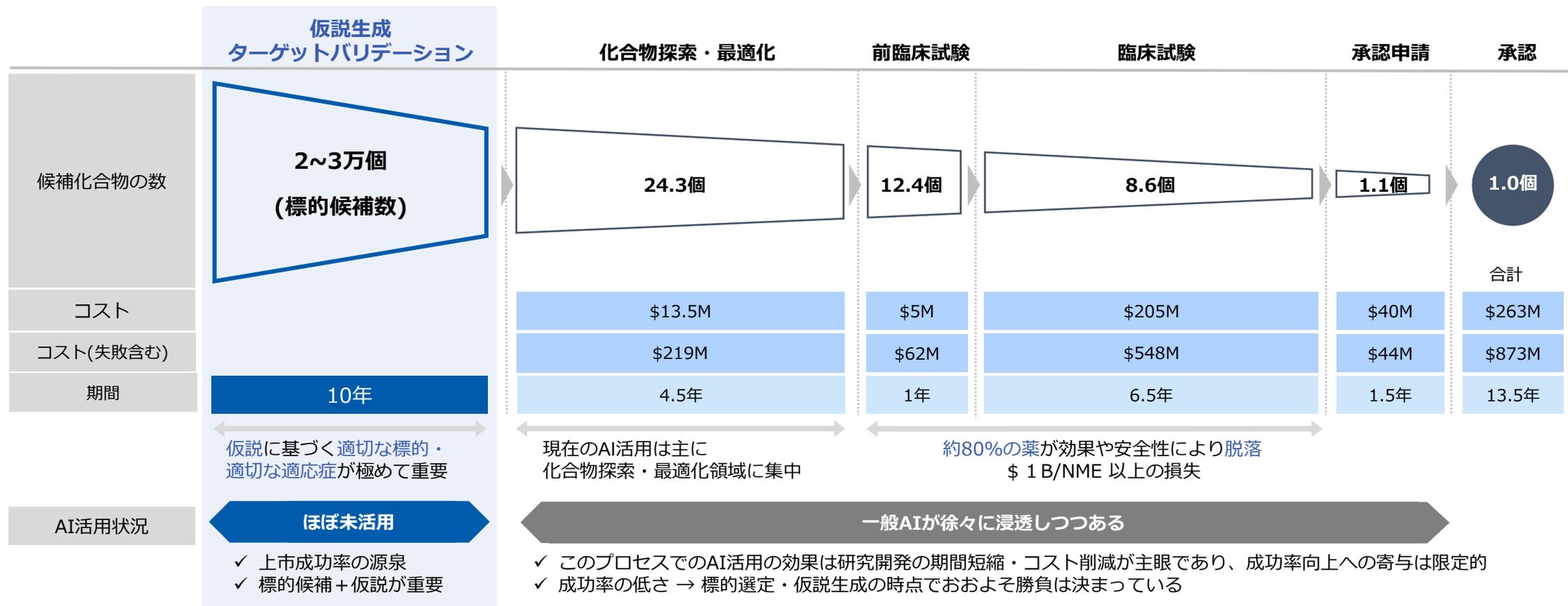
# AI創薬とAI医療機器 2分野で事業展開

- 医薬品研究開発の難化やコスト増が社会的に課題視される中、AI「KIBIT」×創薬研究者によりFirst in Class創薬を大幅に加速
- 早期発見・正確な診断が必要とされる精神疾患に対し、自然会話によって判定する診断支援を行うAI医療機器を開発中

	AI創薬分野	AI医療機器分野
目的	既知から未知の関連性を発見するAI「KIBIT」を活用した創薬プロセスの最適化及び高度化	KIBITを活用した医療機器及び非医療機器開の早期社会実装によるアンメットメディカルニーズの充足
展望	「Drug Discovery AI Factory」構想の実現	日・米初の自然言語系AI医療機器の早期社会実装
顧客設定	国内外の製薬企業及び関連業種	国内外の製薬企業及び医療機関、関連業種
AIソリューション	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">標的探索</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">適応症探索</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">毒性解析</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">バイオマーカー探索</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">導入/導出品評価</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">論文探索支援</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">認知症診断支援</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">うつ病診断支援</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">その他精神疾患支援</div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px;">転倒転落予測</div> </div>
製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」</li> <li>論文探索AI「KIBIT Amanogawa」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話型 認知機能検査用AIプログラム</li> <li>会話型 うつ診断支援 AIプログラム</li> <li>転倒転落予測システム「KIBIT Coroban」</li> </ul>

## 5-i. 事業内容 AI創薬分野 - ②

➤ 創薬研究初期の探索研究領域でAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」を提供し、医薬品開発の成功率向上に貢献



Drug Discovery AI Factory (DDAIF)

## 5 - i . 事業内容 AI創薬分野 Drug Discovery AI Factory (DDAIF) 沿革 - ③

- 2023年7月のDDAIF開始以来、特許に裏付けられた技術がPOCでその実績を認められ、製薬企業との共創プロジェクトへ発展
- FY25は、DDAIFを核とした「FRONTEO共創型創薬エコシステム」を開始し、多様な共創パートナーとの革新的医薬品の創出を目指す

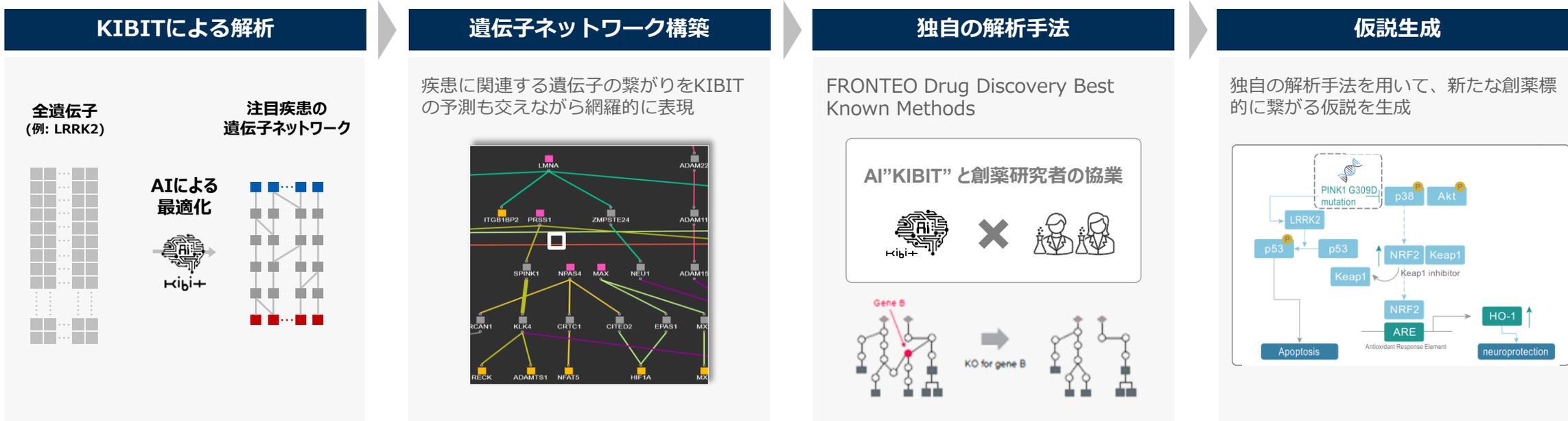


※公開可能PJのみ記載

## 5-i. 事業内容 AI創薬分野 - ④

### 独自の解析手法を駆使し、高確度の標的分子抽出とその仮説を生成

- PubMed等の医学薬学関連データから分子間のネットワークを構築（特許取得済み）
- 創薬研究者が分子間のネットワーク解析やVirtual Experiments（特定遺伝子を仮想的にノックアウトしその影響をシミュレーション）等の独自解析手法を目的に応じ組み合わせ、高速に検証・評価を繰り返し、高確度の標的分子を抽出
- 創薬研究者がKIBITを活用し、未報告の標的分子についても仮説生成が可能



## 5-i. 事業内容 AI創薬分野 FRONTEO共創型創薬エコシステム構想 - ⑤

- 新規性の高い標的分子や適応症を提案できるFRONTEO独自のテクノロジーを起点に、疾患領域やモダリティ等に応じた最適なエコシステムを構築することで、創薬全体の革新的な生産性を実現し、開発期間の短縮と希少疾患を含む幅広い疾患領域への対応を目指す

### 従来の創薬開発スキームの課題

#### ① 製薬企業による一貫型R&Dスキーム

##### R&Dコスト上昇と技術・人材確保の課題

年々高騰するR&Dコストに加え、全工程を担う技術・人材の確保が難しく、継続的な新薬創出が困難

##### アンメットニーズ対応と事業性の両立の課題

各社が自社のケイパビリティに即した開発に注力するため、結果として全体最適から逸脱しがち。R&D効率が低く、希少疾患や小児疾患など市場規模の相対的に小さいアンメットニーズへの対応は劣後される傾向

#### ② 一般的な水平分業型スキーム

##### 非連続な開発プロセスに起因するR&Dの非効率性

各機関が自領域に閉じた対応に終始し、技術的・商業的な視点での相互連携が不足。プロセスごとの個別最適にとどまり、R&D全体の生産性が高まらない

##### 開発期間の長期化

共同研究スキームの構築に時間を要するうえ、導出時の交渉、アセスメント、知財戦略の検討など、間接的な業務負担も大きい。その結果、開発期間が長期化する傾向にある

### FRONTEO起点の共創型創薬エコシステム

#### 領域ごとに最適な共創体制を組成

互いの強みを理解する共創パートナーと技術連携し、疾患領域・アプローチ・モダリティごとに最適な体制を設計。各プロセスの断絶をなくし、低コストかつ短期間な創薬活動を実現

#### リソースの集中と失敗コストの最小化

FRONTEOが起点となり、新規性の高い標的・適応症を仮説とともに潤沢に提供。成功確率の高いプロジェクトに注力してリソース配分することが可能となる

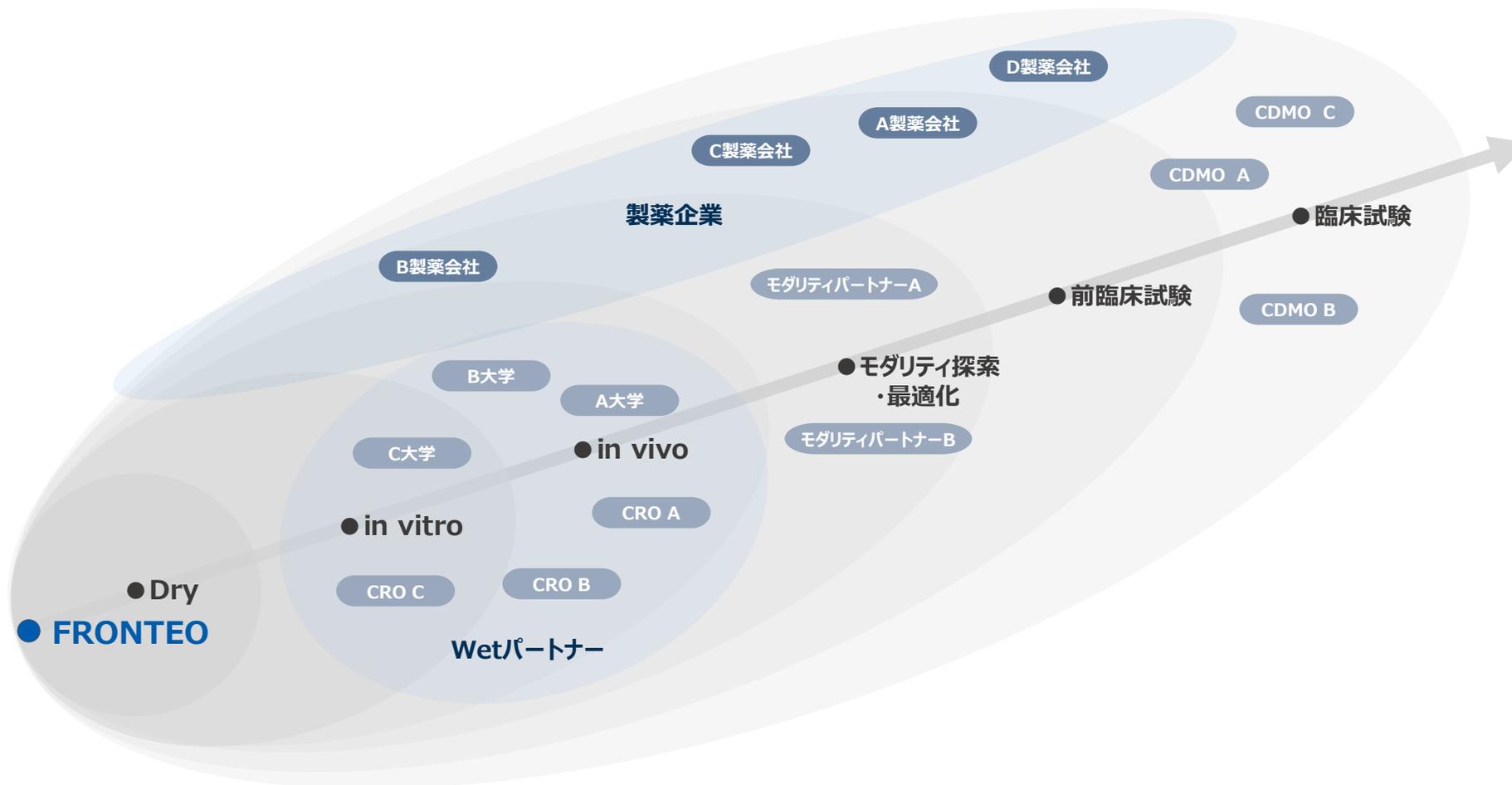
#### 標的×適応症の同時開発

標的探索と適応症探索を同時並行で進めることで、開発の成功確率とアセット価値の向上を実現



## 5-i. 事業内容 AI創薬分野 FRONTEO共創型創薬エコシステムの将来像 - ⑥

➤ FRONTEOの独自テクノロジーを起点に、各分野のスペシャリストとパートナーを組み、エコシステムを構築することで、日本の創薬に貢献



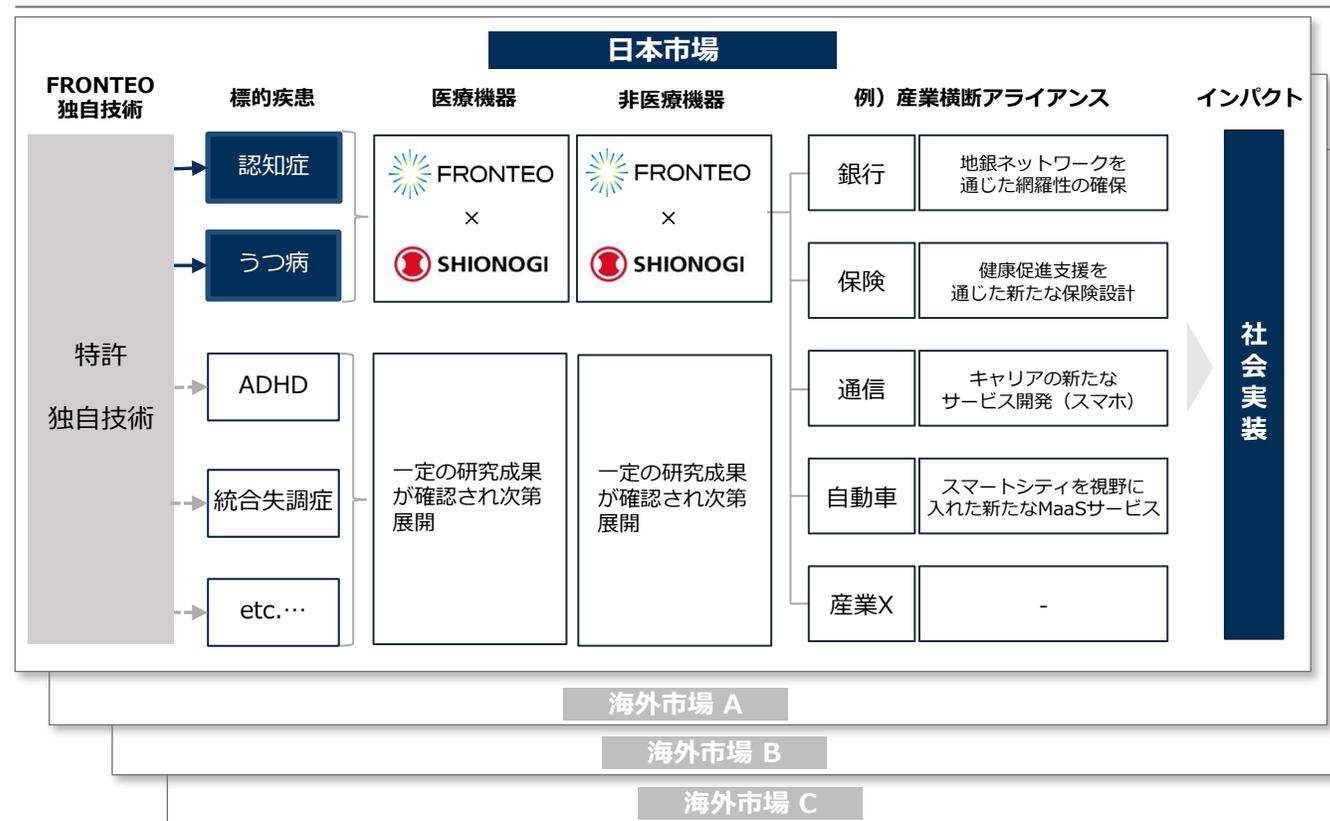
仮説生成 (DDAIF)

## 5-i. 事業内容 AI医療機器分野 - ⑦

# 会話型 認知症・うつ病診断支援AIプログラムの提供

- 会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器について、PMDAとの対面助言が終了。臨床試験の開始に必要な治験届提出に向けてFRONTEOと塩野義製薬で準備開始。本プログラムは、厚生労働省より「プログラム医療機器に係る優先的な審査等の対象品目」に指定された
- 他疾患を対象としたアライアンス及び非医療機器の産業横断アライアンス協議が進行中

AI医療機器／非医療機器の対象疾患及び社会実装へむけたアライアンス戦略



## 5-i. 収益構造 - ⑧

- DDAIFについて、FY24下期より共創プロジェクトを始動。イニシャル収益中心から、マイルストーン収益やロイヤリティが開発進捗に応じて計上される収益構造へのシフトが進む。共創型創薬エコシステム構想に基づいた柔軟な契約形態とそれに伴う収益構造の多様化が進み、収益力の継続的な向上を図る

### AI創薬分野

	受託サービス	共創プロジェクト	ライセンス
概要	DDAIFの受託サービスを提供	DDAIFの共創サービスを提供	KIBIT Amanogawa ライセンス契約
収益対象	契約サービス数	契約サービス数 マイルストーン ロイヤリティ等	契約サービス数 アカウント数
収益タイミング	イニシャル収益	イニシャル収益 リカーリング収益	リカーリング収益

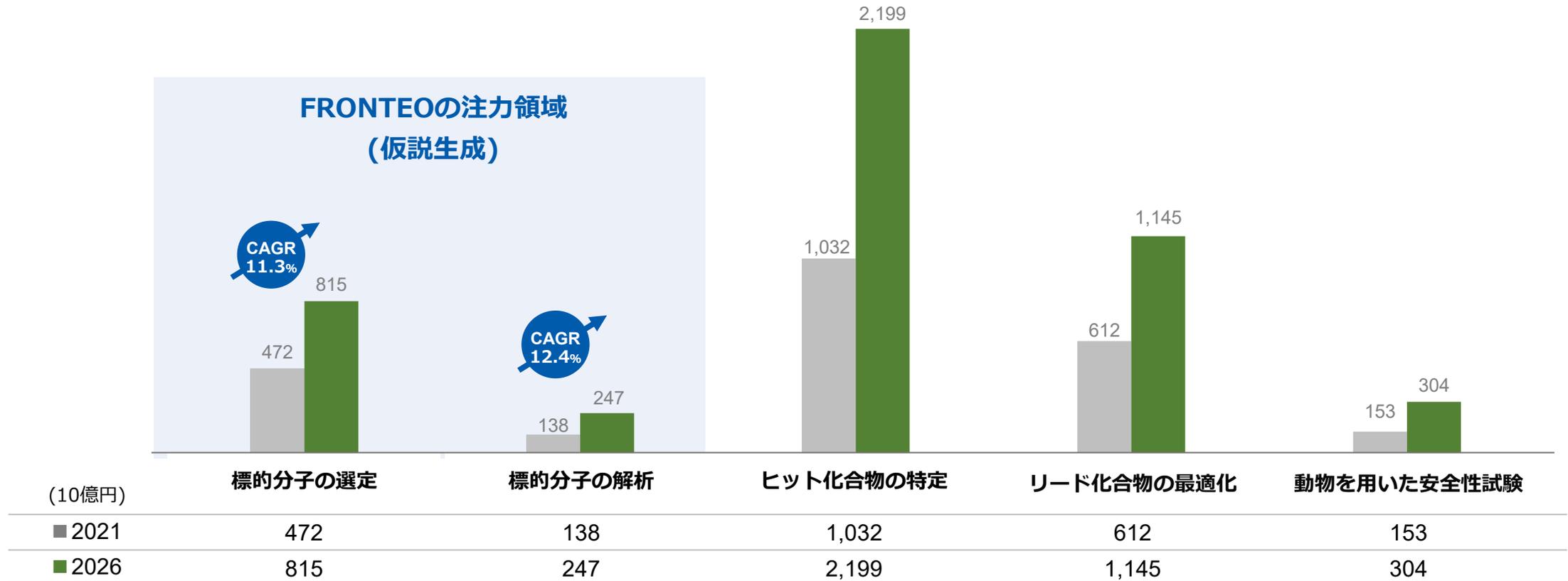
### AI医療機器分野

	開発（マイルストーン収入） 医療機器分野・医療ソフトウェア共通	販売	
		医療機器分野（保険収載）	非医療機器分野
概要	開発フェーズ I、II、III 特許取得の有無、薬事相談のステップ	施設毎における患者の利用数	スマホなどのアプリによる利用数
収益対象	上記開発進捗による マイルストーンフィー	1回の利用毎に収益計上 (ステークホルダーと別途案分)	受託開発総額 アカウント数 利用数等
収益タイミング	イニシャル収益	リカーリング収益	イニシャル収益 リカーリング収益

## 5-i. 市場規模 AI創薬分野 - ⑨

- 世界人口の高齢化による慢性疾患患者数の増加や、個別化医療・精密医療への注目の高まりに起因して、創薬支援サービスの市場規模は全プロセスにおいて増加が見込まれる。2026年には314億ドル（約4.7兆円）に到達する予測
- 当社のメインターゲットである標的探索・検証プロセスの市場は2021年の6,100億円から2026年には1兆620億円まで拡大が見込まれる

バリューチェーン別の創薬サービス市場規模

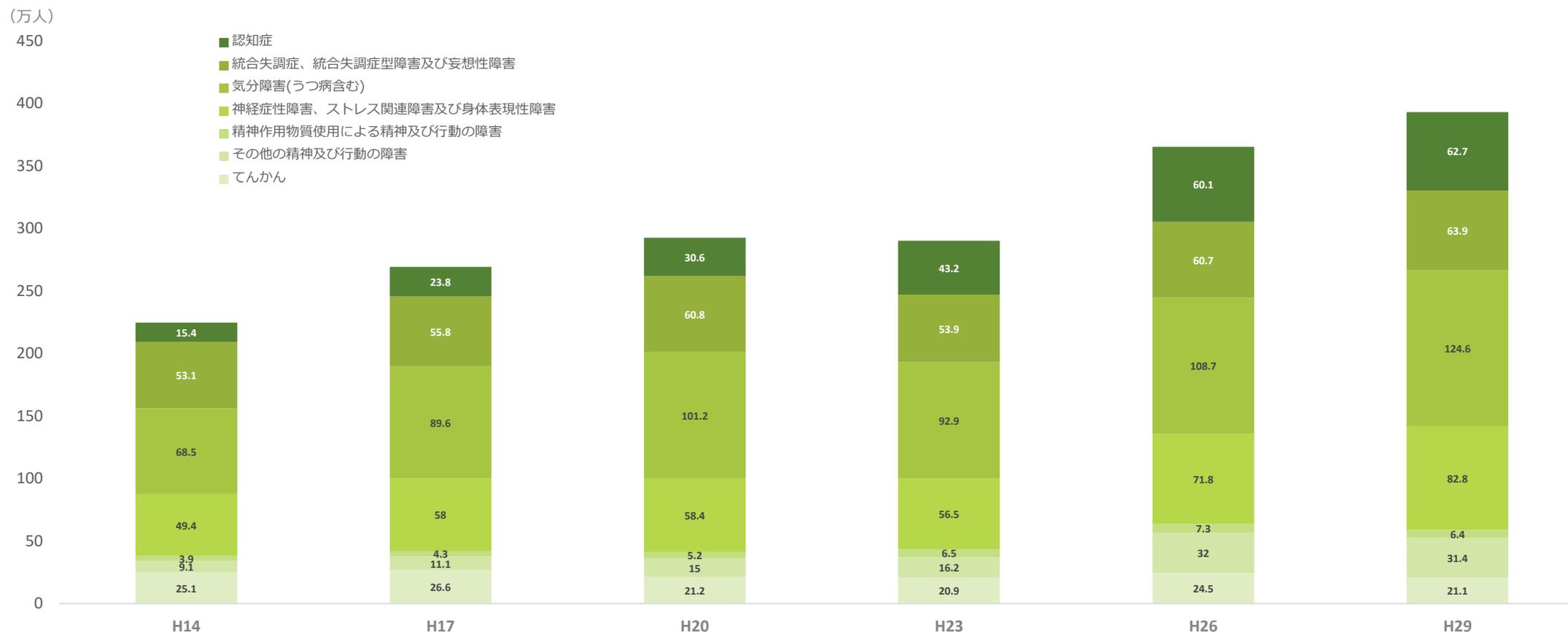


\*グローバルインフォメーション「創薬サービスの世界市場：プロセス別（標的の選択、検証、リードジェネレーション）・種類別（化学、生物学）・薬剤の種類別（低分子、生物製剤）・治療領域別（腫瘍、神経症）・エンドユーザー別（製薬、バイオテクノロジー）・地域別の将来予測（2026年まで）」を基に作成

## 5-i. 市場規模 AI医療機器分野 - ⑩

- 精神疾患を有する外来患者数は増加傾向にあり、特に認知症が平成14年から平成29年までの15年間で約4.1倍、気分障害（躁うつ病含む）は約1.8倍と増加割合が顕著
- 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害も約1.7倍に増加しており、認知症・うつ病に留まらず疾患対応範囲の拡大ニーズも見込まれる

精神疾患を有する外来患者数の推移

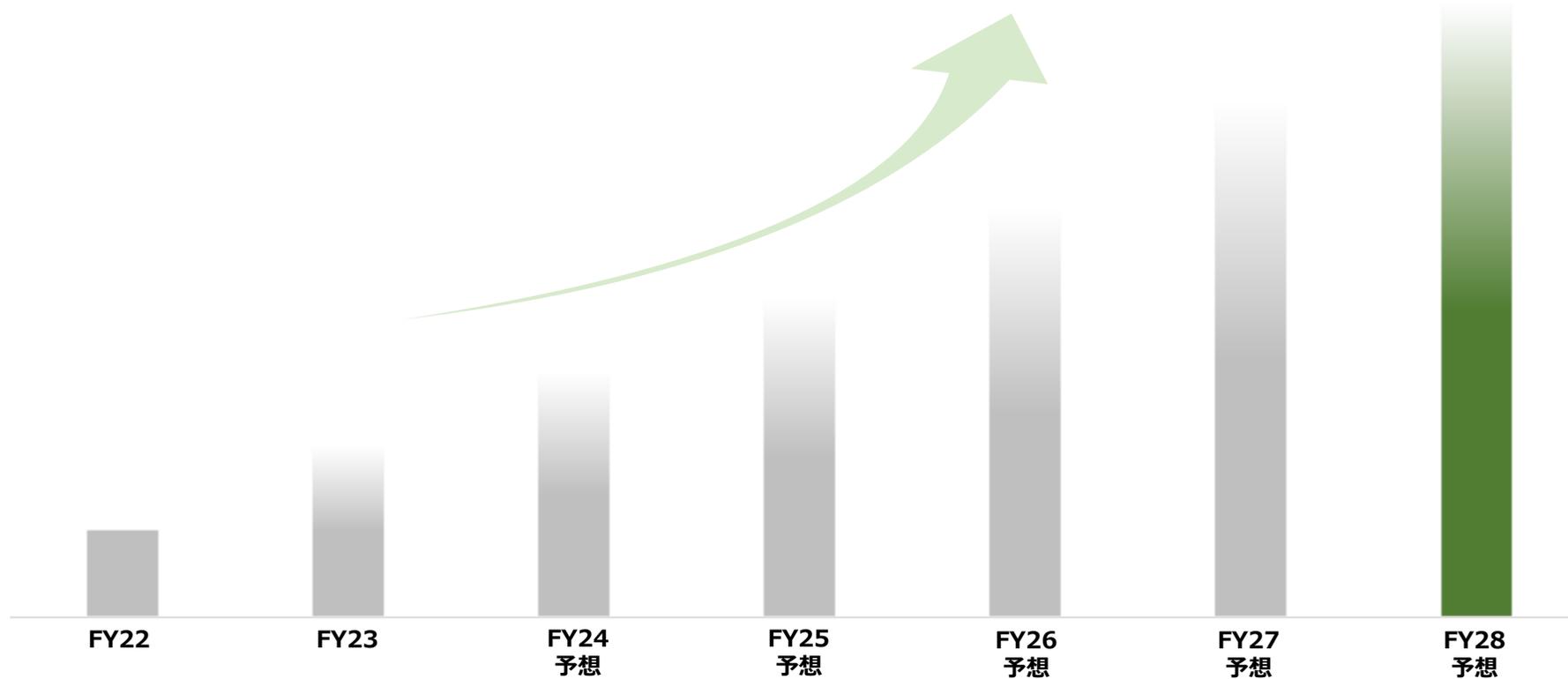


出所 : <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000940708.pdf>

## 5-i. 市場規模 AI医療機器分野 - ⑪

- AI医療機器市場は今後5年で約6倍に拡大
- 政府も法改正、審査フロー等の整備を支援し、普及を促進

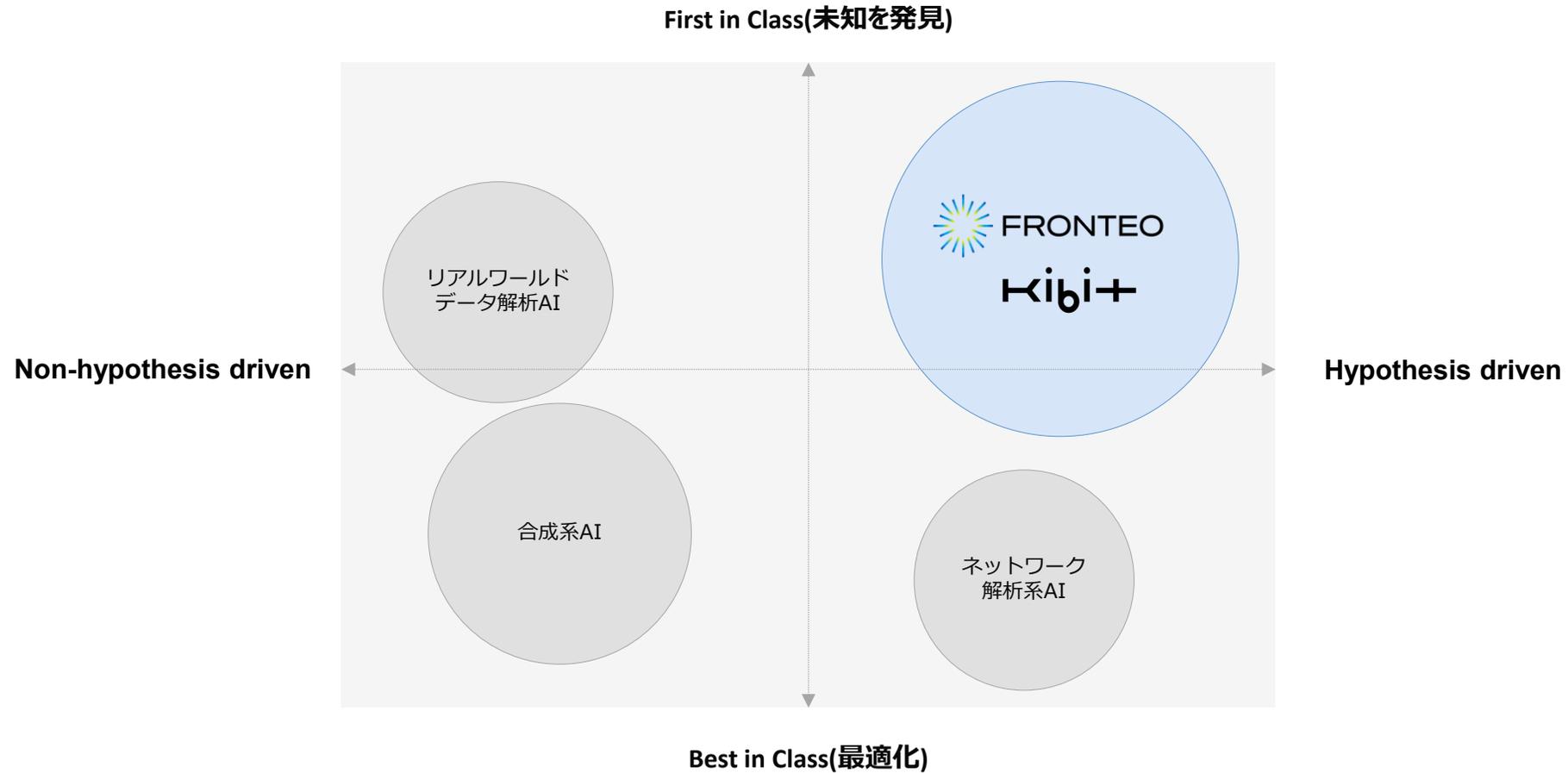
国内の診断・診療支援AIシステム市場規模予測



\* 当社予測

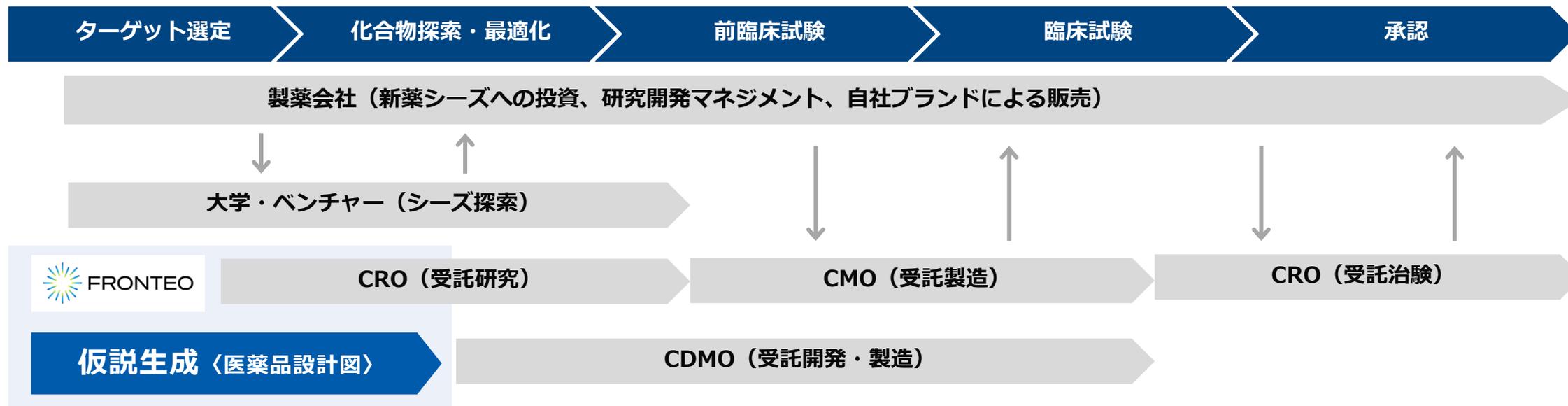
## 5-i. 競合環境 AI創薬分野 - ⑫

- 自然言語処理をベースとした独自のAI技術基盤によって専門家（薬理研究者）の業務を加速
- まだAI技術が浸透していない創薬プロセスの最上流（基礎研究）がメインターゲット



## 5-i. 競合環境 AI創薬分野 - ⑬

- 既知の文献情報から記載のない未知の関連性を発見する独自技術を用いて、疾患関連性の高い未報告の標的分子を抽出する事により高品質な**仮説生成のハイスルーブット化**を実現
- **バリューチェーンの最上流（設計工程）**を押さえ、創薬プロセスの起点としての位置付けを目指す



FRONTEOが医薬品業界の**設計工程**を担い、半導体業界の**ファブレス企業**と同等に位置づけられ、創薬における**ボトルネックの飛躍的改善**に貢献

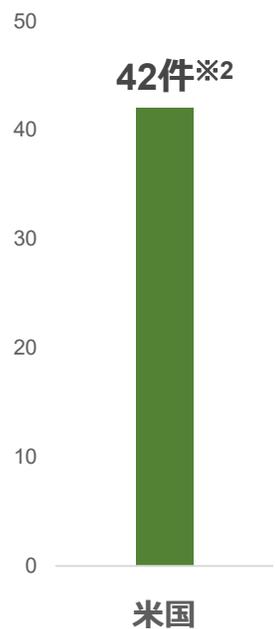
半導体業界バリューチェーン



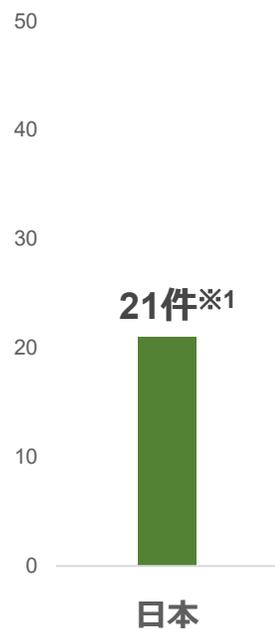
## 5-i. 競合環境 AI医療機器分野 - ⑭

- 日本において2024年12月時点で承認されたプログラム領域の医療機器は21件※1
- 米国において2024年9月時点で承認されたNeurology領域のAI/ML医療機器は42件※2
- 自然言語系の診断AI医療機器は日米いずれにおいても不在であり、承認されればユニークなマーケットポジションが確立

米国で承認されたNeurology領域のAI/ML医療機器  
(2024年9月現在)



日本で承認されたプログラム領域の医療機器  
(2021年4月-2024年12月)



日米で承認された言語系診断AI医療機器※1,2  
(米国2024年9月現在、日本2024年12月現在)



※1) 自社調べ [医療機器の承認品目一覧 | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構](#)  
承認品目一覧の分類項目が変更され、プログラム領域が加わった令和3年度（2021年度）以降の調査

※2) 自社調べ <https://www.fda.gov/medical-devices/software-medical-device-samd/artificial-intelligence-and-machine-learning-aiml-enabled-medical-devices>  
米国で承認されたAI/ML医療機器の中でNeurology領域に分類された機器の調査

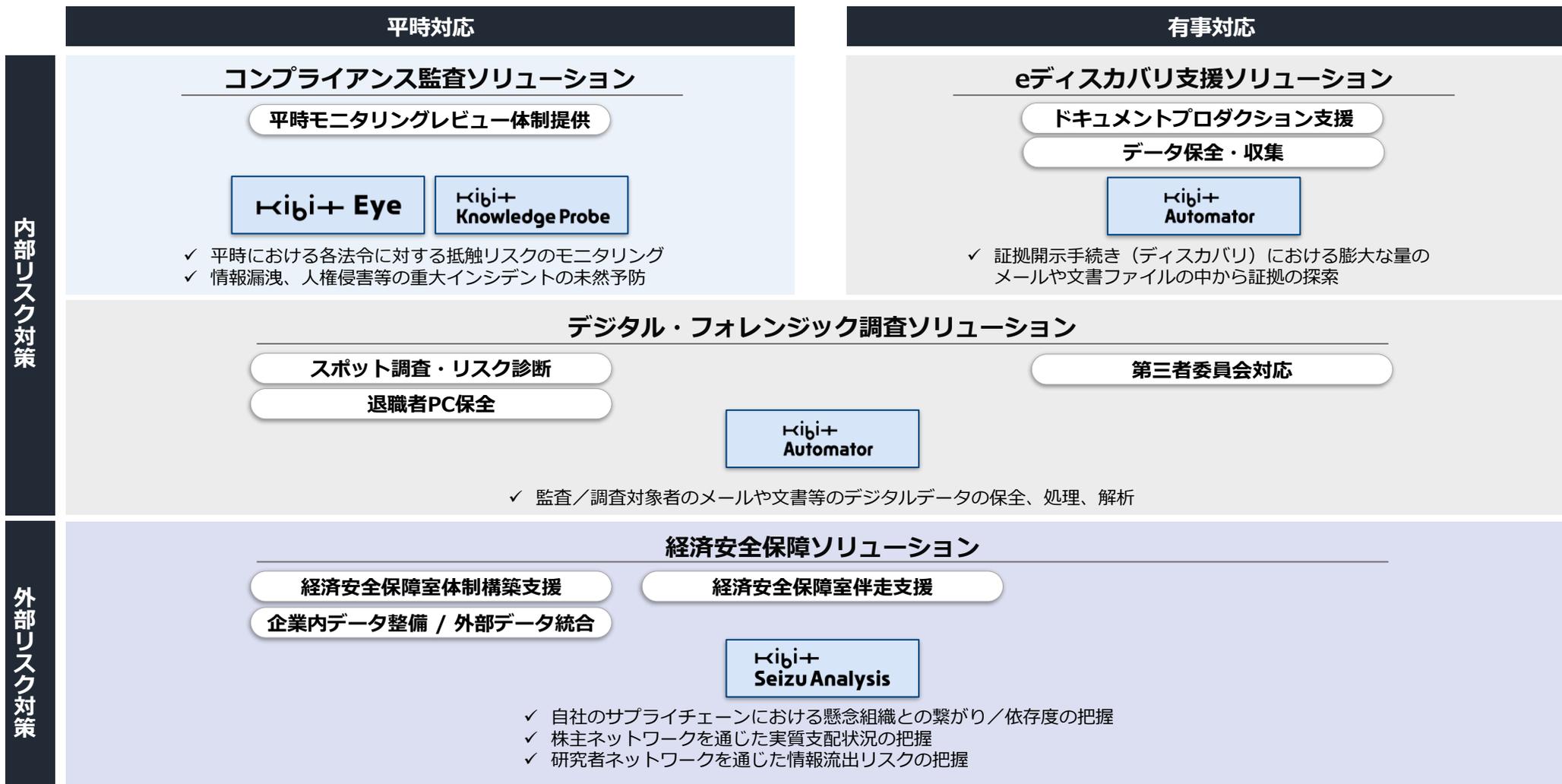
※3) 会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器及び会話型うつ病診断支援AIプログラムの承認を目指しております。  
本プログラムは2025年4月時点で開発中のものとなります。

1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
- 5. 事業概要**
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業**
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

## 5 - ii . 事業内容 全体像 - ①

- リスクマネジメント領域における4つのソリューションおよび付随するサービスを集約し、リスクマネジメント事業として包括的なソリューション提供を実現

ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野
リーガルテックAI分野
経済安全保障分野



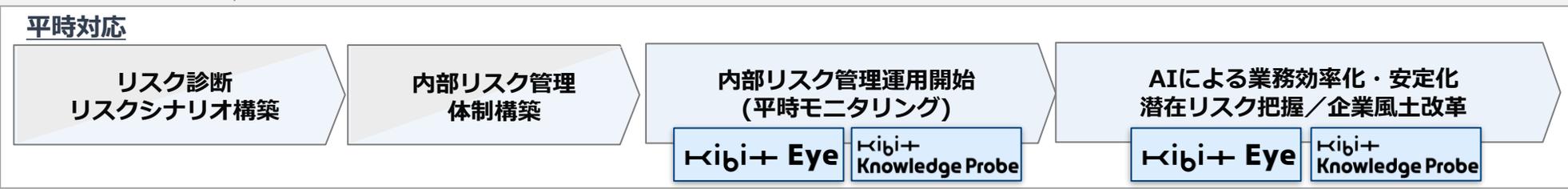
## 5-ii. 事業内容 バリューチェーン - ②

- 有事から平時、内部および外部それぞれにおけるリスクマネジメントソリューションの提供実績をもとに、企業におけるリスクマネジメントの着手から定着、高度化までのソリューションを一貫して提供

リーガルテックAI分野    ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野    経済安全保障分野



### ● 内部リスク対策



### ● 外部リスク対策



## 5 - ii . 事業内容 ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野 - ③

### 自然言語処理AI×専門領域における事業展開

- 企業の法令遵守が重要な社会課題と認識される中、各法令に対する抵触リスク検知に特化したコンプライアンス監査ソリューションを300社を超える企業への提供実績
- 平時の継続的なモニタリングによる、規制強化に伴う各種報告義務に対するエビデンスの蓄積、企業風土の健全化を支援
- 企業／部門ごとに異なる要求に応じたモデル構築／チューニングが可能であり、法改正／規制強化や監査観点の追加にも柔軟に対応

#### コンプライアンス支援分野

目的

「KIBIT」を活用した平時モニタリングによる法令違反リスクの検知、各種報告義務に対するエビデンス提供、企業風土の健全化

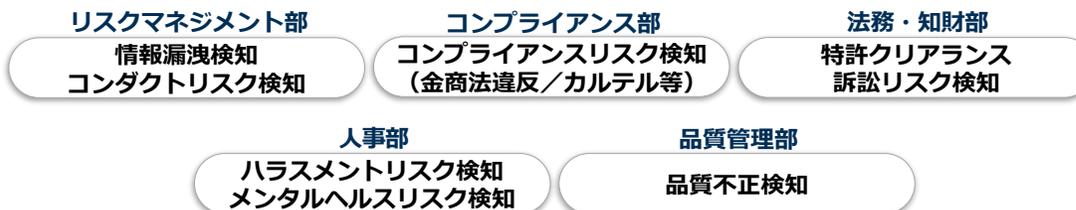
展望

各業界標準となるコンプライアンスプログラムの確立

顧客設定/導入産業

メガバンク	大手証券	大手生保	大手損保
自動車	大手製造	エネルギー	インフラ

AIソリューション



製品



- ・ メール／チャット／音声テキスト監査AI「KIBIT Eye」
- ・ ビジネスドキュメント解析支援AI「KIBIT Knowledge Probe」

## 5 - ii . 事業内容 リーガルテックAI分野 - ④

### eディスカバリ支援とデジタル・フォレンジック調査 2領域で事業展開

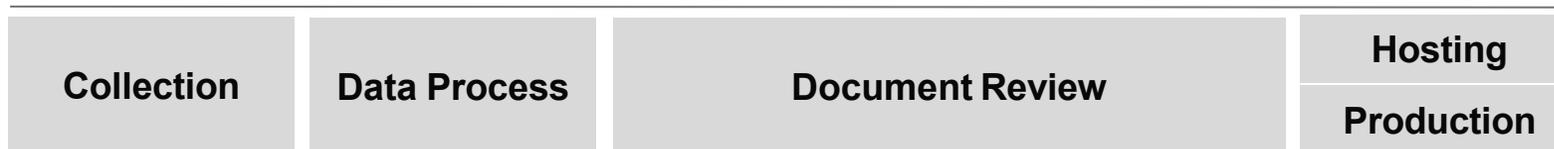
- eディスカバリ支援：証拠開示手続き（ディスカバリ）において膨大な量のメールや文書ファイルの中から証拠を探し出す作業にAIレビューツール「KIBIT Automator」を活用することで、確認すべき文書量と費用の大幅な削減を実現
- デジタル・フォレンジック調査：第三者委員会等の決められた期限内に調査対象者のメールや文書等のデジタルデータの保全、処理、解析を行うことで、事件の真相解明を支援

	eディスカバリ支援	デジタル・フォレンジック調査
目的	不正行為が疑われる対象者のパソコンや携帯のデータから事実を究明	不正行為が疑われる対象者のパソコンや携帯のデータから事実を究明
展望	海外進出を行う日本企業のデータ主権を守るベスト eDiscoveryサービスプロバイダー	企業不正が発生した際の有事対応における最適なパートナー
顧客設定	米国進出する国内外企業及び弁護士事務所	日本国内企業及び弁護士事務所
AIソリューション	eディスカバリ支援サービス Data Celler（データ記憶媒体保管サービス）	フォレンジック調査 退職者PC保全サービス 企業不正の予兆検知「saki-mori」 クレジットカード不正調査/サイバーセキュリティ調査
製品	 <ul style="list-style-type: none"> <li>eディスカバリ支援ソフトウェア 「KIBIT Automator」</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル・フォレンジックソフトウェア「KIBIT Automator」</li> </ul>

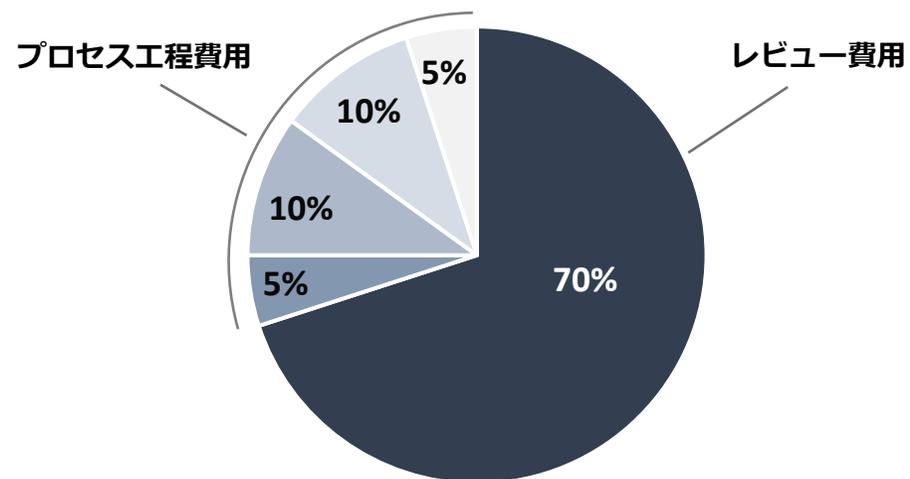
## 5 - ii . 事業内容 リーガルテックAI分野 - ⑤

- eディスカバリ支援、デジタルフォレンジック調査において、ドキュメントレビューにかかる費用が大半を占める中、「KIBIT」を活用することで訴訟と関連性の高い文書からレビューを行うことが可能となり、弁護士や企業の時間とコストを大幅に削減することが可能

eディスカバリ支援、デジタルフォレンジックの工程



ドキュメントレビューにかかる費用・労力・時間の負担が大きい



## 5 - ii . 事業内容 リーガルテックAI分野 - ⑥

- 法律事務所との共同セミナー開催及び法律専門家向けポータルサイト運用を継続的に実施し、強固な顧客基盤を構築



## 5 - ii . 事業内容 経済安全保障分野 - ⑦

### 官民学の経済安全保障領域における事業展開

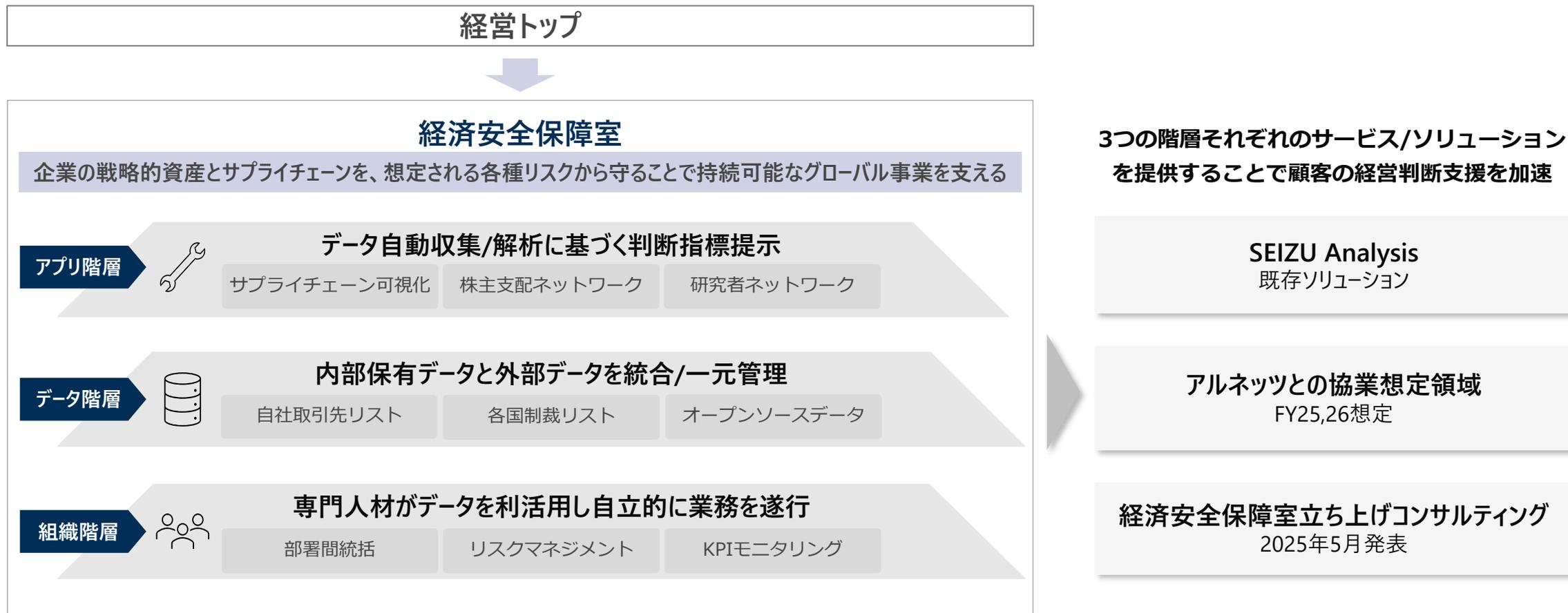
- 官公庁における経済安全保障政策実現のための「KIBIT Seizu Analysis」の提供及び各種調査テーマに応じたコンサルティング
- 民間企業における輸出入規制／技術流出リスクの検知及び対策立案のための「KIBIT Seizu Analysis」の活用

#### 経済安全保障分野



## 5 - ii . 事業内容 経済安全保障分野 - ⑧

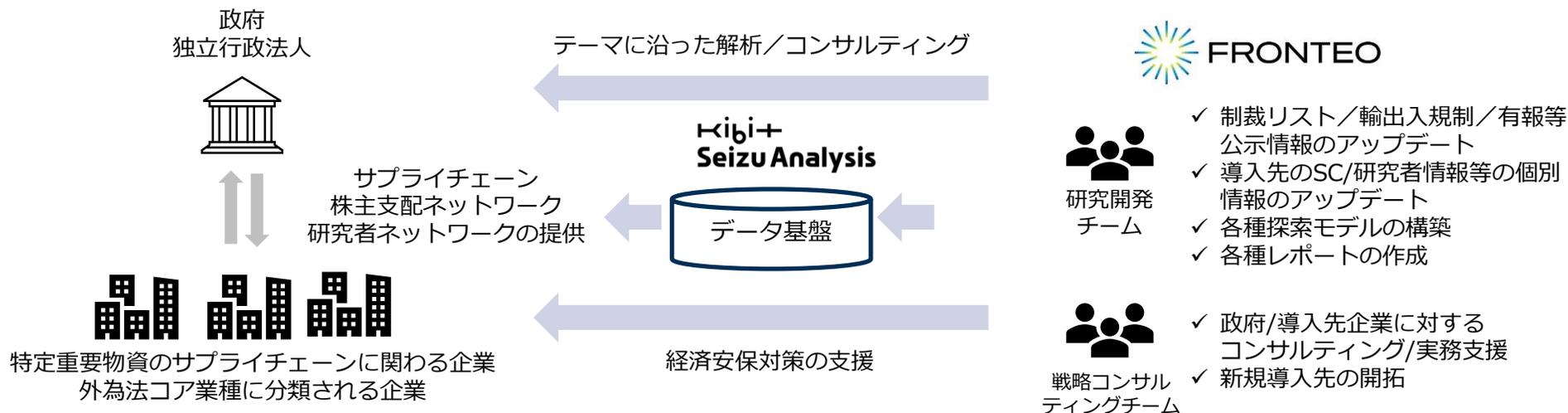
- 経済安全保障における必要機能階層を定義し、データドリブンな意思決定を行うための総合的なサービス体制構築を図る
- 組織階層に対応する2025年5月に経済安全保障室立ち上げコンサルティングサービスを発表。データ階層も短期でのサービス化を予定



## 5 - ii . 事業内容 経済安全保障分野 - ⑨

➤ 社会的な要請を背景として、官公庁・アカデミアでの多数の実績を民間に展開しシェアを拡大

### 官民学の経済安全保障プラットフォームの構築へ向けて



### ステークホルダーのメリット及びマネタイズの可能性

	メリット	マネタイズポイント	想定規模
政府サイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 官民情報連携による経済外交戦略の推進支援</li> <li>✓ サプライチェーン/技術流出リスクの発見</li> <li>✓ 外為法/特定重要物資の供給確保計画等における審査の負軽減/期間短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 随意契約での基盤提供/情報の活用支援</li> </ul>	<p>2千万~5千万/年 ×10機関</p>
企業サイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ サプライチェーンリスク/資本政策上のリスク/技術流出の回避</li> <li>✓ 経済安全保障対策負荷の軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 官公庁/既存導入先/アカデミアからの紹介を活用</li> <li>✓ 経済安全保障室の設立/維持にかかる費用の50%程で訴求</li> </ul>	<p>5千万~1億/年 ×50社程度</p>

## 5 - ii . 収益構造 - ⑩

### ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野／経済安全保障分野

	コンサルティング	アセスメント	PoC/ リスク診断	トライアル利用	システム開発/ データ統合/ 導入支援	ライセンス	保守/ 運用支援
概要	リスク管理体制の 立ち上げコンサルティング 伴走支援	AIの適用範囲を整理し 業務改善効果を提案	KIBIT製品、 その他AI技術を用いた 仮説検証 企業のリスク診断	KIBIT製品の トライアル利用 およびレポート提供	KIBIT製品活用のための 個別システム開発 企業データの統合 KIBIT製品の導入支援	KIBIT製品の ライセンス提供	KIBIT製品の ライセンス保守 受託開発システム保守 KIBIT製品の運用支援
収益対象	コンサルタント工数 (人×対象工数)	コンサルタント工数 (人×対象工数)	結果報告書 (人×対象工数)	各種ライセンス 結果報告書 (人×対象工数)	人月単価 (人×対象工数)	各種ライセンス	毎月のサポート等
収益 タイミング	イニシャル収益	イニシャル収益	イニシャル収益	イニシャル収益	イニシャル収益	リカーリング収益	リカーリング収益 イニシャル収益※

※ 運用支援に関して、スポットで対応するイニシャル収益の場合もあり

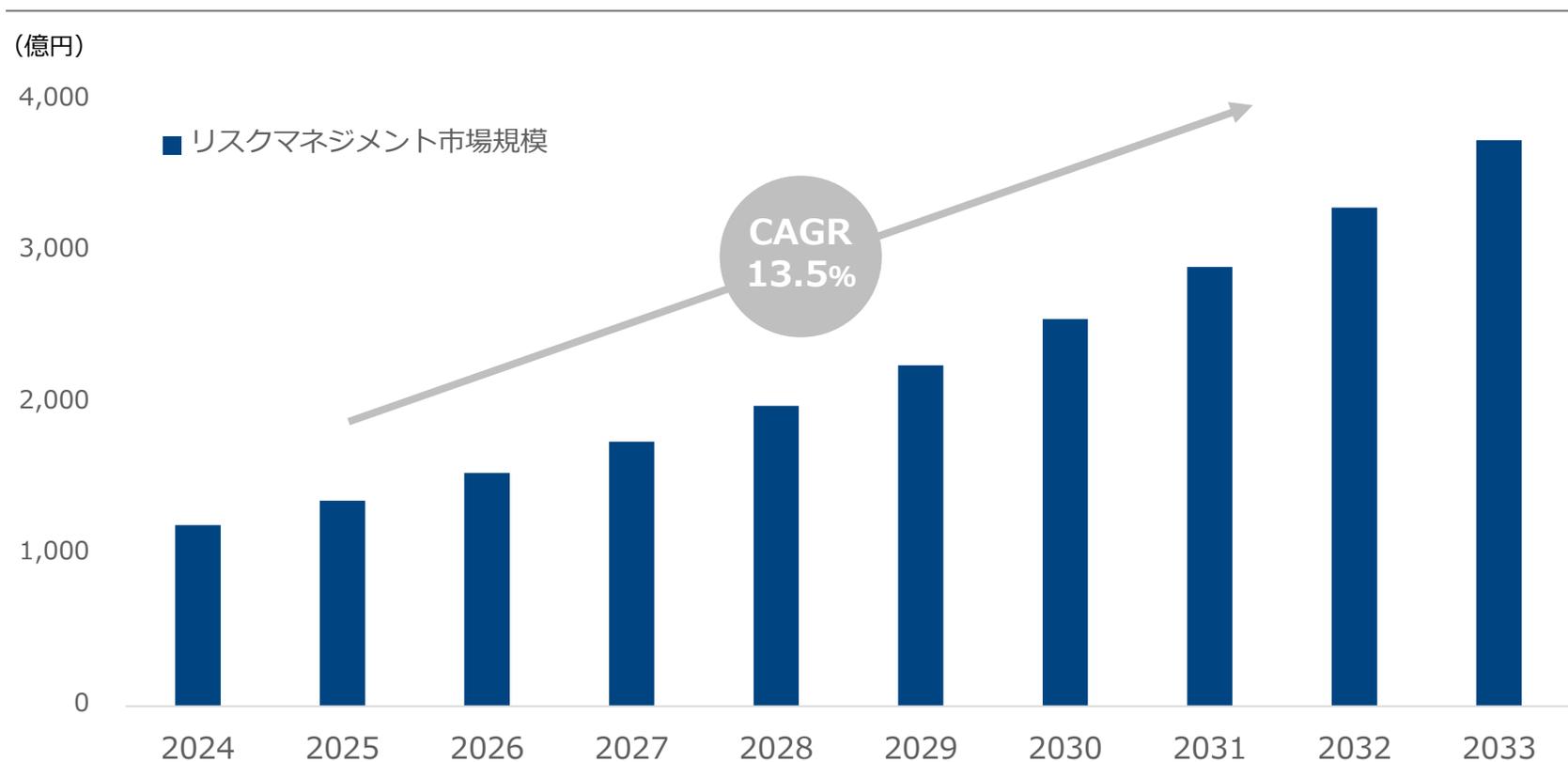
### リーガルテックAI分野

	Collection	Process	Review	Hosting
概要	対象者の端末から データを抽出	抽出したデータを 関係の有無で仕分	仕分けたデータを確認	係争中案件のデータを保管
収益対象	台数 (PC等)	対象データのGB容量	人×対象時間	保存データのGB容量 (リカーリング：3か月～10年)
収益 タイミング	イニシャル収益	イニシャル収益	イニシャル収益	リカーリング収益

## 5 - ii . 市場規模 - ⑪

- 規制強化、コンプライアンスリスクの拡大、情報漏洩の脅威等、組織のリスク認識の高まりに牽引され市場は拡大見込み
- 2033年には約3,800億円規模に成長すると予測

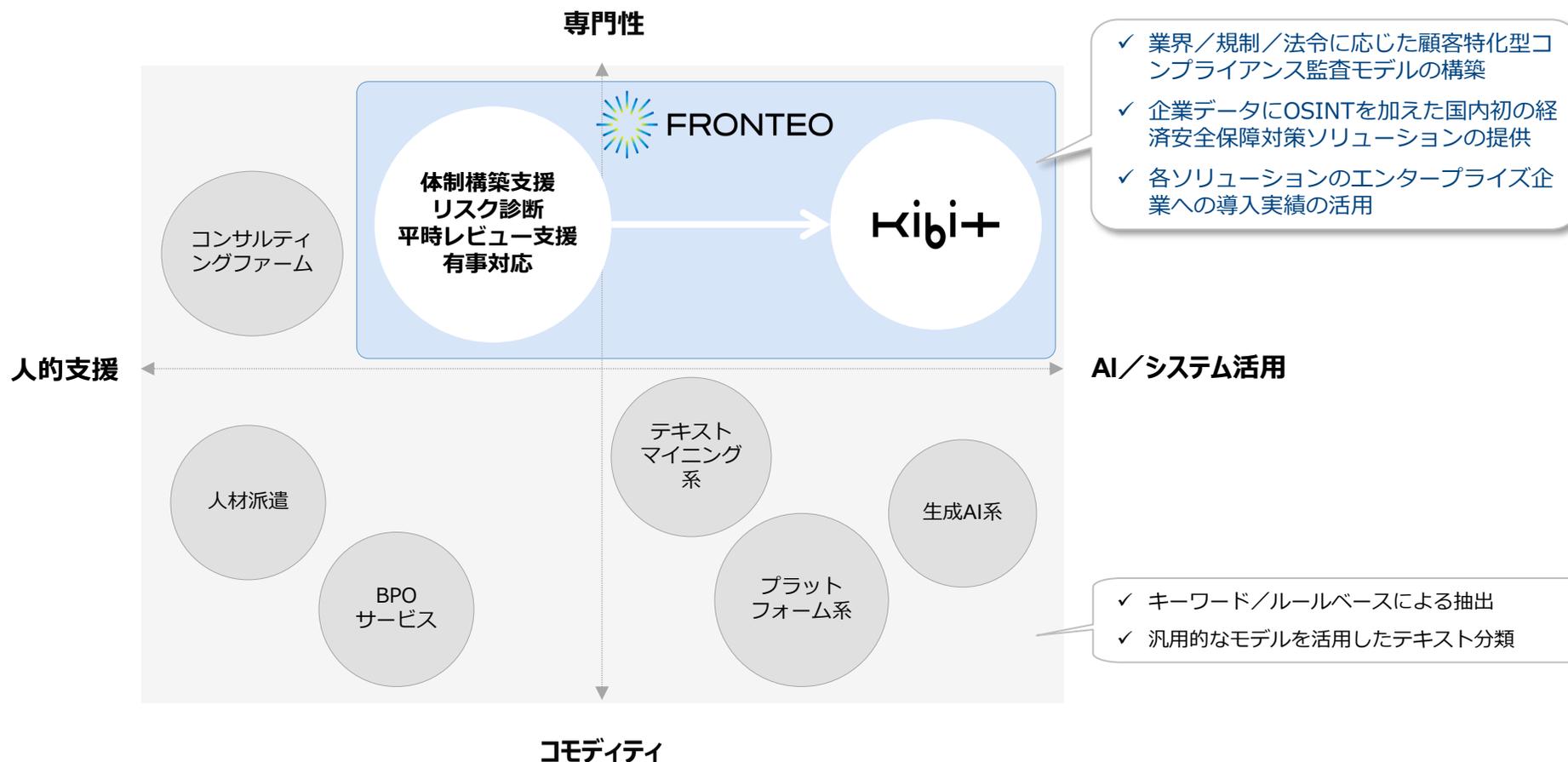
リスクマネジメント市場規模（2024～2033年）



\*当社予測

## 5 - ii . 競争環境 - ⑫

- エンタープライズ企業におけるプロフェッショナル業務（専門家の判断支援）に特化したソリューションを提供
- 実績やKIBITの解析技術を活用した人的支援サービス（体制構築支援／リスク診断／平時レビュー支援／有事対応等）から、KIBITの導入までを一貫して提供

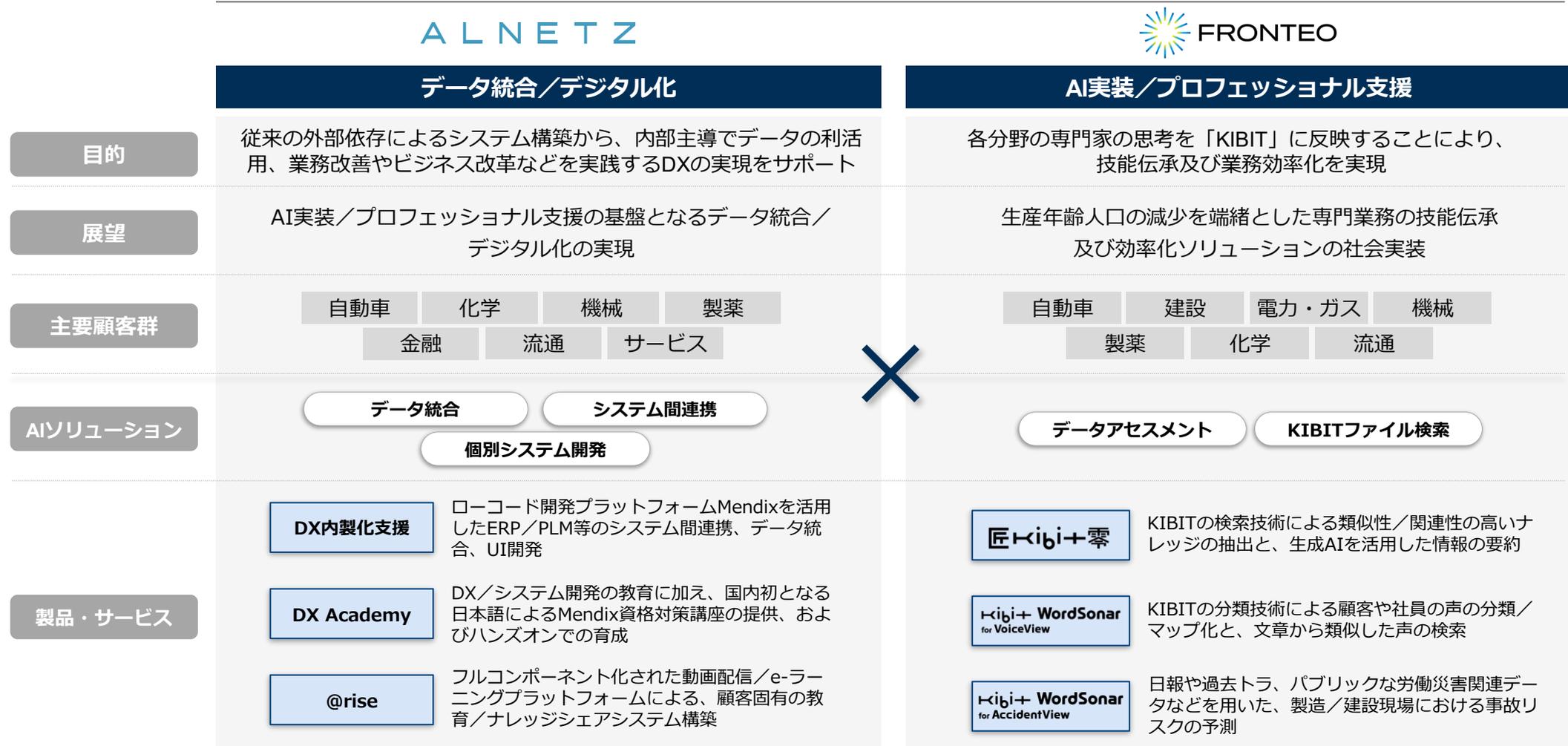


1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
- 5. 事業概要**
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業**
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

## 5-iii. 事業内容 全体像 - ①

- ALNETZが提供するDXソリューションにより企業のデジタル変革を実現し、FRONTEOが提供するプロフェッショナル支援ソリューションを加えることで高付加価値化を実現する

## DX事業



## 5-iii. 事業内容 バリューチェーン - ②

- DX実現段階および課題の種類に応じたソリューションを有しており、DX推進の初期段階からAI実装による高度化までを一貫して支援可能

ALNETZ

FRONTEO

## デジタル化

データ未整備・分断

## データマネジメント

## データアセスメント

KIBITによる価値あるデータの抽出／分類／可視化

## データ統合

個別受託開発／Mendixの活用

DX内製化支援

ITスプロール

## モダナイゼーション

## システム間連携

Mendixの活用によるERP／PLM／受託開発システム等の連携

DX内製化支援

ガバナンス不在

## 人材育成

## DX人材育成

DX／システム開発の教育、Mendix技術者の育成、教育プラットフォームの提供

DX Academy

@rise

## AI実装

## プロフェッショナル支援

## 価値あるデータの発掘／競争優位の確保

KIBITの検索技術／分類技術による  
企業内に埋もれた価値あるデータの抽出と情報のマップ化

匠 KIBIT+ 零

KIBIT+ WordSonar  
for VoiceView

## プロフェッショナルの業務効率化／品質安定化

KIBITの検索技術による業務観点に応じた  
関連性の高い資料／ナレッジの抽出

匠 KIBIT+ 零

KIBIT+ WordSonar  
for AccidentView

KIBITファイル検索

## プロフェッショナル人材育成／技能伝承

KIBITの検索技術による熟練者の有するナレッジの集約と  
生成AIを活用したナレッジの要約、人材育成基盤の提供

匠 KIBIT+ 零

@rise

## 5 - iii. 収益構造 - ③

	アセスメント (コンサルティング)	PoC (実証実験)	システム開発/ 導入支援	ライセンス	保守/ 運用支援	講座提供
概要	データアセスメントおよび、 AI活用を提案する コンサルタント業務	「KIBIT」およびその他AI技 術を用いた概念検証	個別システム開発の提供 KIBIT/ALNETZ社製品および Mendixの導入支援	KIBIT/ALNETZ社製品の ライセンス提供 Mendixのサブライセンス提供	ライセンス保守、 受託開発したシステム保守、 各種製品の運用支援	DX Academyにおける 講座提供
収益対象	コンサルタント工数 (人×対象工数)	結果報告書 (人×対象工数)	人月単価 (人×対象工数)	各種ライセンス	毎月のサポート等	コンテンツ提供 ハンズオン講座 (講座当たり単価)  カスタム講座提供 (人×対象工数)
収益 タイミング	イニシャル収益	イニシャル収益	イニシャル収益	リカーリング収益	リカーリング収益 イニシャル収益※1	イニシャル収益 リカーリング収益※2

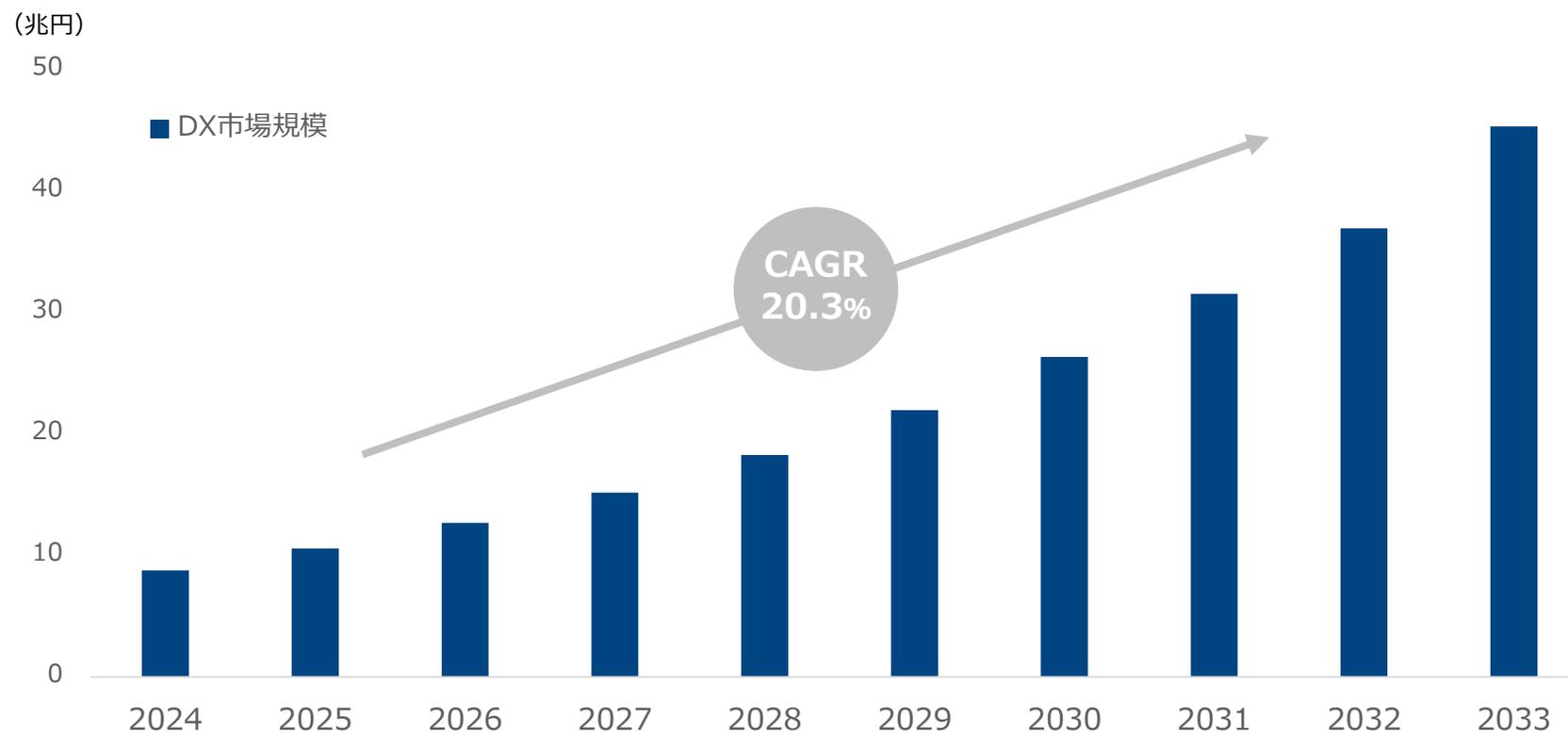
※1 運用支援等を定期的契約ではなく、スポットで対応するイニシャル収益の場合あり

※2 年度単位での契約の場合あり

## 5-iii. 市場規模 - ④

- 製造業を中心とした企業の業務効率化／自動化／技能伝承の課題は深刻度を増しており、引き続き市場は拡大見込み
- 政府によるデジタル制作の推進、クラウド活用拡大に伴い2033年には約45兆円規模に成長すると予測

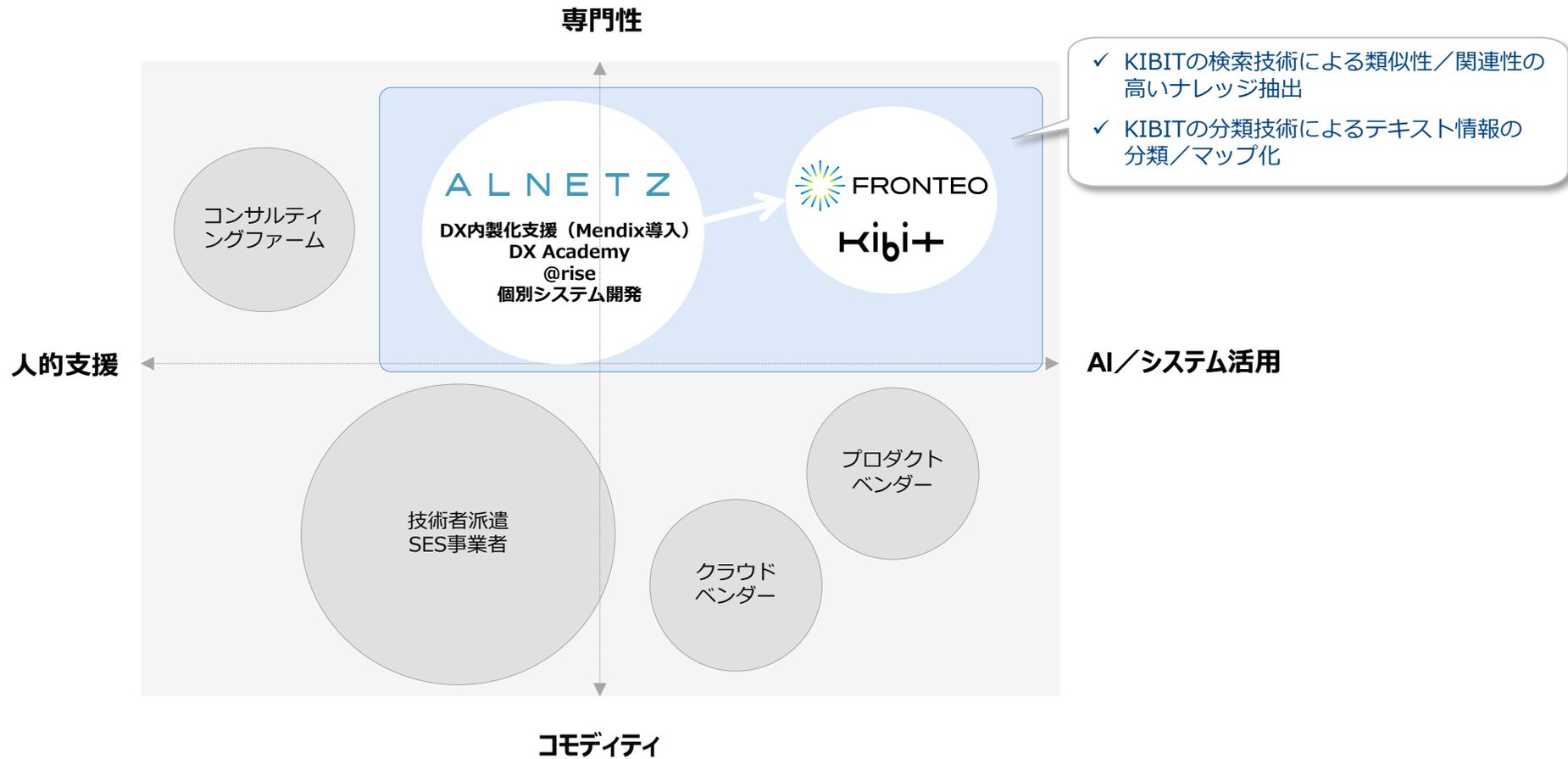
DX市場規模 (2024~2033年)



\*当社予測

## 5 - iii. 競争環境 - ⑤

- ALNETZが企業のデジタルトランスフォーメーションを推進
- FRONTEOがAI活用によるプロフェッショナル業務の支援ソリューションを提供



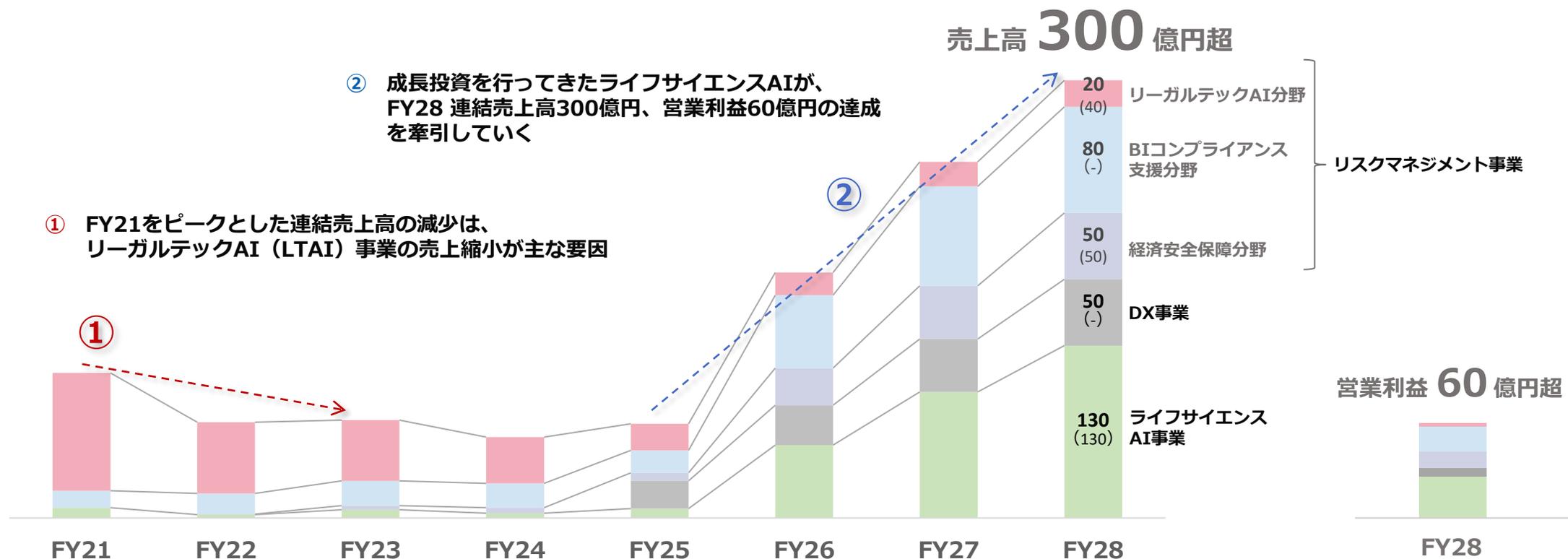
1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
5. 事業概要
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. **ステージ4のイメージ**
7. リスク情報

## 6. ステージ4（中期計画） FY28の売上高・営業利益イメージ - ①

### ライフサイエンスAIをステージ4の中核事業と位置づけ、経営資源の集中を徹底

#### 前回公表した事項（2024年6月25日）からの変更点

リーガルテックAI	米国子会社のリーガルテックAI事業（LTAI）からの撤退により、LTAIのステージ4（中期計画）最終年度の売上計画を変更
DX事業の新設 （セグメント変更）	製造業向けDXソリューションを提供する、ビジネスインテリジェンス（BI）・プロフェッショナル支援分野、アルネッツ（FY25 5月から子会社化）を一体運営し、DX事業の基盤構築とシナジー創出を図り、LTAIの減少分を補っていく



( ) は前回公表時の目標数字。セグメント変更により、リスクマネジメント事業のBIコンプライアンス支援分野及びDX事業は前回公表との比較が無いため (-) にしております。

## 6. FY24の振り返り - ②

### FY24全社総括

#### AIソリューション事業

利益率の高いリカーリング案件の伸長や収益性の高い新規案件の獲得等により、営業利益などを期初計画から上方修正（2024年8月14日、2025年2月14日）成長領域であったAIソリューション事業がリーガルテック事業のセグメント利益を上回り主力事業への事業転換が進行

##### ■ ライフサイエンスAI分野 AI創薬領域：

AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(DDAIF)」を立ち上げ、FY24のKPI3件を大幅に上回る7件を成約し、収益拡大の基盤を確立

##### ■ ライフサイエンスAI分野 AI医療機器領域：

塩野義製薬との共同開発「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器（SDS-881）」は2026年度の承認取得へ向けて予定通りの進捗

##### ■ ビジネスインテリジェンス分野：

不正検知システム「KIBIT Eye」を基盤サービスとして順調に進捗しており、売上高に占めるリカーリング比率は75%に到達し、期初想定を上回る

##### ■ 経済安全保障分野：

経済安全保障に対するニーズの高まりや、経済安全保障対策AIソリューション「KIBIT Seizu Analysis」の機能拡張などにより、高精度なソリューション提供が可能になり、民間企業案件が前年同期比約2倍になり、また、売上高に占めるリカーリング比率は71%と大幅に増加

#### リーガルテックAI事業

コスト構造改革及びのれん等の減損による償却負担の減少効果が想定以上に実現し、営業利益などを期初計画から上方修正（2024年8月14日）米国子会社のeディスカバリ支援事業からの撤退により売上高が減少したが、コスト構造改革により大幅に営業利益を改善し、通期で黒字を達成。国内事業はフォレンジック事業を中心に堅調に推移

(単位：百万円)	FY23 実績	FY24予想 (期首)	FY24予想修正 (24.8.14時点)	FY24予想修正 (25.2.14時点)	FY24 実績	前期比	期首予想 対比
売上高	7,375	6,500	6,500	6,100	6,099	-17%	-6%
(AIソリューション事業)	2,797	3,100	3,100	2,700	2,607	-7%	-16%
(リーガルテックAI事業)	4,577	3,400	3,400	3,400	3,491	-24%	3%
営業利益	▲ 185	105	400	523	527	-	402%
(AIソリューション事業)	162	100	100	300	277	71%	177%
(リーガルテックAI事業)	▲ 347	5	300	223	249	-	-
経常利益	▲ 168	110	420	553	543	-	394%
当期純利益	▲ 2,843	30	320	490	555	-	-

## 6. FY24までの振り返りとステージ4への変更点 - ③

ライフサイエンスAI事業（AI創薬分野）	
FY24までの課題と進捗状況	ステージ4への影響

- ✓ Drug Discovery AI Factory (“DDAIF”) の共創プロジェクト案件を着実に積み上げ、KPI3件に対し、7件成約済み
- ✓ 足元、複数の製薬企業との契約に向け交渉中
- ✓ 革新的な生産性を実現し、開発期間の短縮と成功確率の向上を目指し共創型創薬エコシステム構想を策定

- ✓ AI創薬ビジネスは当社グループの中長期的な成長の中核となる事業としての位置づけ
- ✓ 「共創プロジェクト」をコア事業とし、包括契約等を通じた収益拡大を見込む
- ✓ 製薬会社とのアライアンスにより、非連続な成長を見込む
- ✓ 米国市場への展開も検討

ライフサイエンスAI事業（AI医療機器分野）	
FY24までの課題と進捗状況	ステージ4への影響

- ✓ 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器（SDS-881）」について、厚生労働省のプログラム医療機器調査会において優先審査対象品目への指定を受け、治験届を提出。2026年度の承認取得を目指す
- ✓ 「会話型 統合失調診断支援AIプログラム」「会話型 ADHD診断支援AIプログラム」等、その他開発パイプラインについても予定通り進捗、アライアンス候補先の選定を開始

- ✓ 塩野義製薬との業務提携契約からの、開発進捗に応じたマイルストーンフィーと上市後の販売に応じたロイヤリティ収入を見込む
- ✓ 認知症・うつに続く他疾患を対象としたアライアンスのパイプラインも進行中
- ✓ 非医療機器を対象とした産業横断アライアンスによる社会実装により非連続成長を見込む
- ✓ 海外市場への展開も検討

## 6. FY24までの振り返りとステージ4への変更点 - ④

### リスクマネジメント事業（BIコンプライアンス支援分野）

FY24までの課題と進捗状況	ステージ4への影響
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 企業の不正リスクの未然防止に関する需要は拡大基調</li> <li>✓ 不正検知システム「KIBIT Eye」の受注状況は堅調に推移し、大手金融機関への導入加速により当社製品のプレゼンスが向上。五大証券会社への導入実績は4社（80%）へ拡大</li> <li>✓ リカーリング収益は77%に到達。FY28のKPIを大幅に超過しており、中長期における安定的な収益基盤を確保</li> <li>✓ FY24の実績は73社、平均単価20百万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 前回の公表に対し、予定通り堅調に推移</li> <li>✓ 「KIBIT Eye」を基幹サービスとしたリカーリング率向上により、リニアな成長を見込む</li> <li>✓ FY24は既存顧客との取引深耕を軸としたアカウント毎の取引拡大・早期案件獲得に注力</li> <li>✓ FY25以降は既存顧客との取引深耕に加え、大手企業・準大手企業をターゲットとした大規模プロジェクトを獲得していく</li> </ul>

### リスクマネジメント事業（リーガルテックAI分野）

FY24までの課題と進捗状況	ステージ4への影響
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ FY24は米国子会社の撤退により売上減少した一方、営業利益は通期で黒字化達成</li> <li>✓ コスト構造改革の効果により、収益相関性が高い組織/オペレーションへ移行し、FY23と比べて、利益が大幅に改善</li> <li>✓ 顧客基盤の構築に向けたFLLPの推進は予定通り進捗し、2025年4月に会員2万人を突破。FY25以降も引き続きFLLP活動を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 顧客基盤の構築・強化活動を継続</li> <li>✓ 事業特有のボラティリティリスク、米国子会社の事業撤退を加味し、ステージ4（中期計画）最終年度の売上計画を変更</li> <li>✓ コスト構造改革や減損による償却費負担の減少の効果により保守的な売上でも黒字化を見込む</li> <li>✓ 既存リソースをベースに、利益確保に重点を置いた堅実な事業運営の方針を継続</li> </ul>

### リスクマネジメント事業（経済安全保障分野）

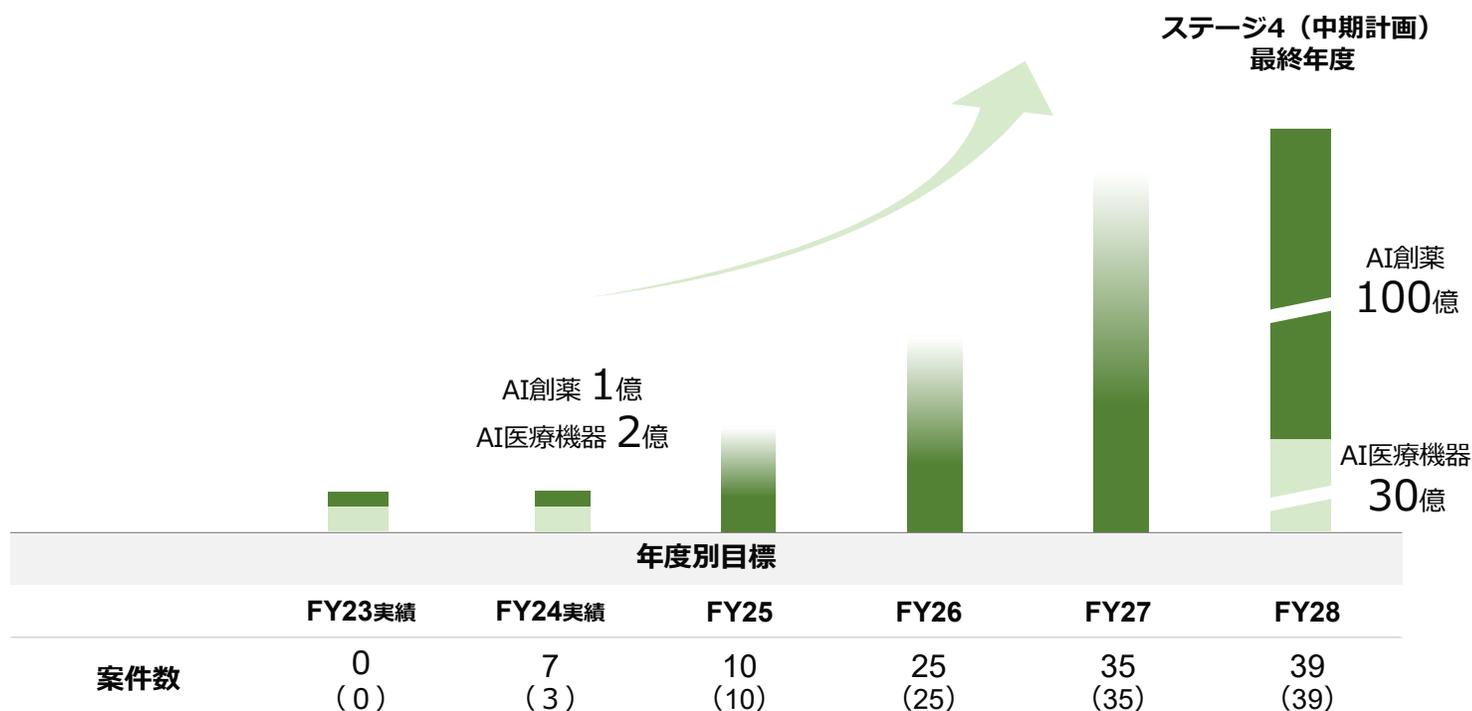
FY24までの課題と進捗状況	ステージ4への影響
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ トランプ関税や国際情勢、地政学リスク及び各国の規制を背景にした制裁リスクへの対策だけでなく、対応の遅れによる機会損失が大きな課題になり、民間企業のサプライチェーンリスクの可視化や、制裁リスト対象国・組織による実質支配を把握するニーズが拡大</li> <li>✓ 売上高は前期比34%に伸長。売上高に占めるリカーリング比率も71%まで成長し、完全に投資フェーズを抜け出した</li> <li>✓ 民間企業案件は、前年同期比2倍の成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 市場の追い風は、中長期的に継続すると見込まれ、官公庁や大手企業において、一定規模の投資予算が確保される傾向</li> <li>✓ 「KIBIT Seizu Analysis」を活用したソリューションの提供を通じて、リカーリング収益の拡大を基盤としつつ、包括契約による非連続な成長を見込む</li> <li>✓ 2025年5月に経済安全保障室立ち上げコンサルティングサービスを発表。経済安全保障における必要機能階層を定義し、データドリブンな意思決定を行うための総合的なサービス提供を図る</li> </ul>

## 6. FY24までの振り返りとステージ4への変更点 - ⑤

DX事業（BIプロフェッショナル支援分野）	
FY24までの課題と進捗状況	ステージ4への影響
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ビジネスインテリジェンス（BI）の技能伝承／プロフェッショナル支援領域では、POC・データアセスメントを通じた、建設・製造業における社内ドキュメントデータのAI探索及び価値創出の実績が積み上がり、FY25以降の成長に弾み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年4月に株式会社アルネッツを子会社化し、プロフェッショナル支援領域と合わせてDX事業として独立したセグメントへ再編</li> <li>✓ アルネッツが提供するソリューションを通じて、企業内に分散するデータの統合およびデジタル化を実現し、企業のDX推進のための基盤を整備</li> <li>✓ FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションを組み合わせることで、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的なDX支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を実現すべく取り組みを加速</li> </ul>

## 6. ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 将来性とKPI - ⑥

- FY28 売上高130億円達成を目指し、**AI創薬支援サービス (DDAIF) の共創プロジェクト\*型案件数をKPIとする**
- DDAIFにおける共創プロジェクトにおいては、開発の進捗に応じて受領するマイルストーンフィーを通じた収益化に加え、中長期的には当社独自で探索した分子を製薬会社へ展開することから見込まれる収益も視野に



### ステージ4 達成のための施策

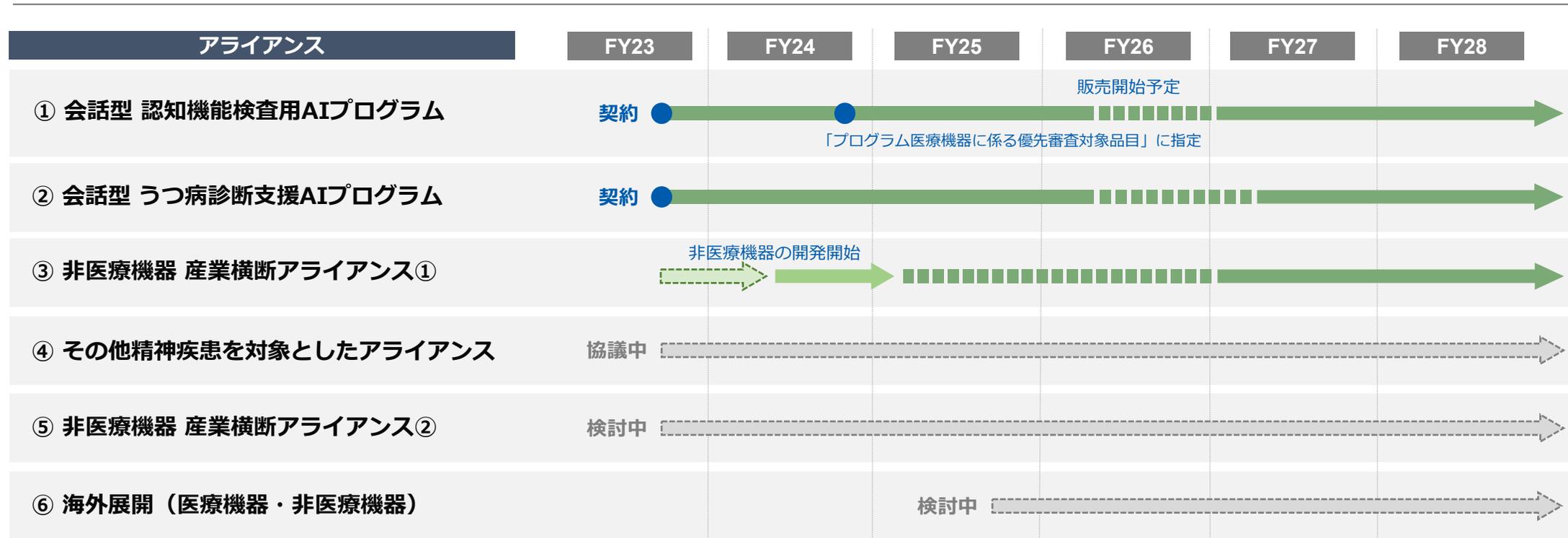
- ✓ FRONTEOの技術基盤と親和性の高い標的探索領域を中心とした共創プロジェクトを基軸とした案件創出
- ✓ バリデーション合格/開発マイルストーンなどFRONTEOが創出した標的候補の妥当性が一定確認できたタイミングでの収益計上することで、収益規模をスケールアップ
- ✓ また、共創プロジェクトで得られた知見や成果及び収益は、新たな技術開発に再投資し標的候補の開発成功率を継続的に向上させていく
- ✓ 高度専門人材（主に薬理研究者及びデータサイエンティスト）の採用に向けた積極投資

\* 共創プロジェクトとは、製薬企業と当社の研究チームが協調し、検証済標的の獲得までを目指す形態 ( ) は前回公表時の目標数字

## 6. ライフサイエンスAI事業 AI医療機器分野 パイプライン - ⑦

- 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器 (SDS-881)」について、治験届を提出。2026年度の承認取得を目指す
- 他疾患を対象としたアライアンス及び非医療機器の産業横断アライアンスの協議が進行中

### アライアンスのパイプライン

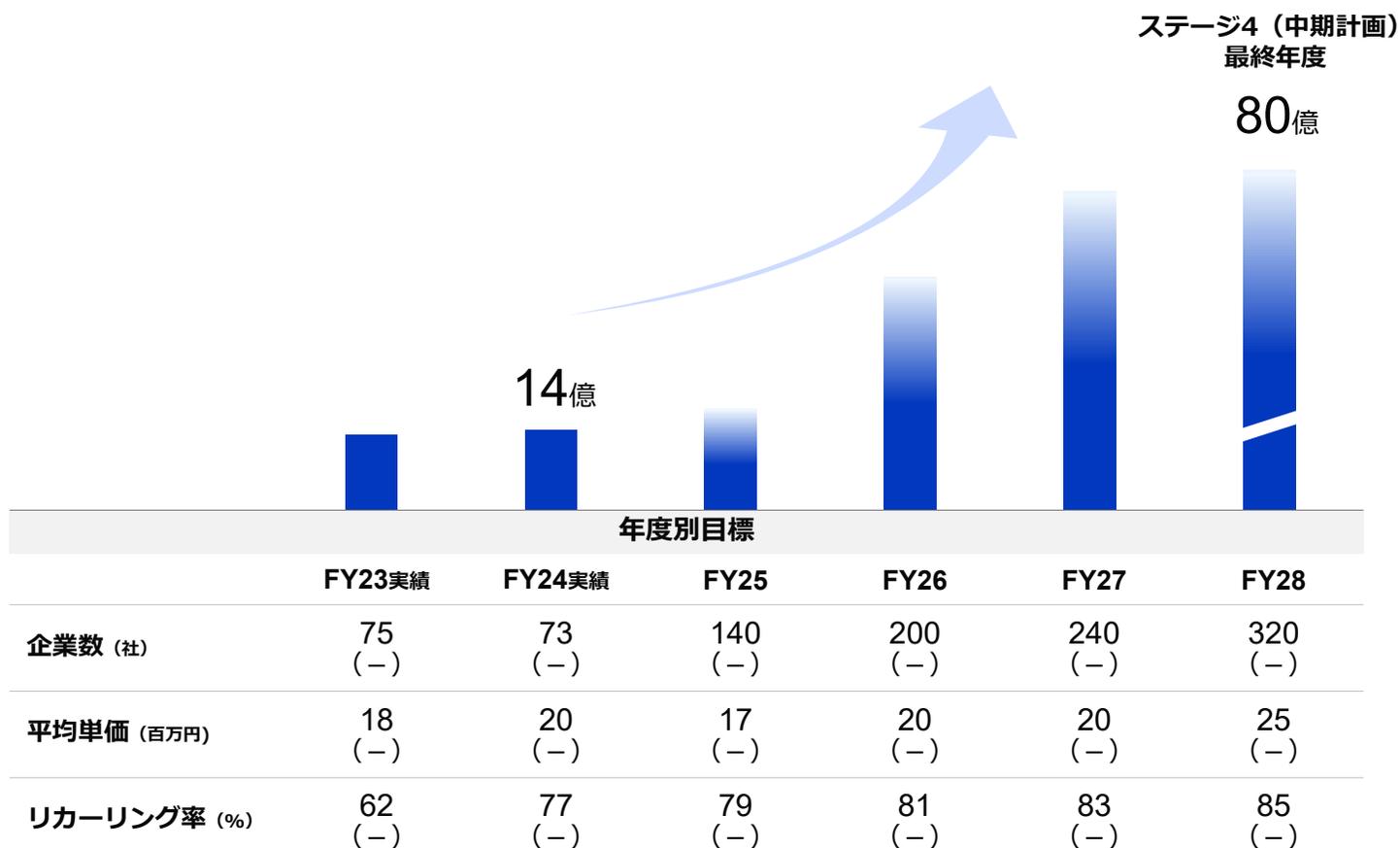


### ステージ4 達成のための施策

- ✓ 会話型・認知機能検査用AIプログラム及び会話型・うつ病診断支援AIプログラムのいずれも医療機器としての薬事承認を視野に開発中
- ✓ 既存の技術を活用しながら、他疾患を対象とする医療機器・非医療機器を早期に開発することで対応範囲の拡大を目指す
- ✓ 非医療機器としての社会実装・水平展開も視野にアライアンスパートナーの選定を開始
- ✓ 日本語に限らず英語等の他言語対応への技術的な展開フィジビリティは一定検証済みであるため、海外展開を見据え検討中

## 6. リスクマネジメント事業 BIコンプライアンス支援分野 将来性とKPI - ⑧

➤ FY28売上高80億円達成を目指し、**契約企業数**、**平均単価**、**リカーリング率**をKPIに設定



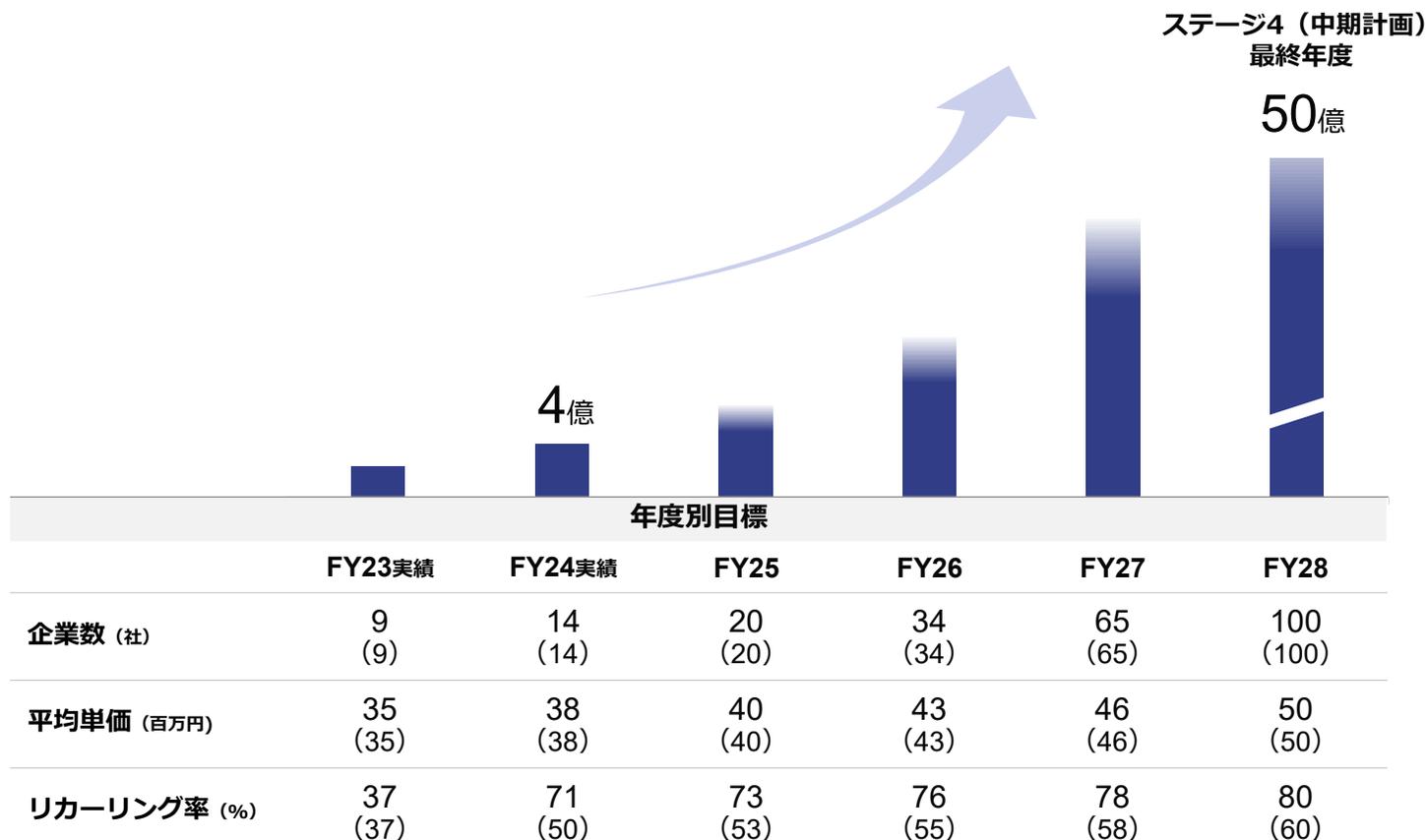
### ステージ4 達成のための施策

- ✓ FY2028までに導入社数320社、1企業あたり単価を25百万円にし、80億円を目指す
- ✓ 営業施策：
  - FY24は既存顧客との取引深耕を軸としたアカウント毎の取引拡大・早期案件獲得に注力
  - FY25以降は既存顧客との取引深耕に加え、大手企業・準大手企業をターゲットにし、1億円規模の大規模プロジェクトの獲得
  - リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る77%に達し、ステージ4までにリカーリング比率85%を目指す

\*セグメント変更により、前回公表との比較が無いため (-) にしております

## 6. リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 将来性とKPI - ⑩

- FY28売上高50億円達成を目指し、**契約企業数、平均単価、リカーリング率**をKPIに設定
- 経済安全保障室を設置している又は設置を検討している上場企業数は19社\*  
FY24時点で**当社ソリューションの導入シェアは70%超と推定**



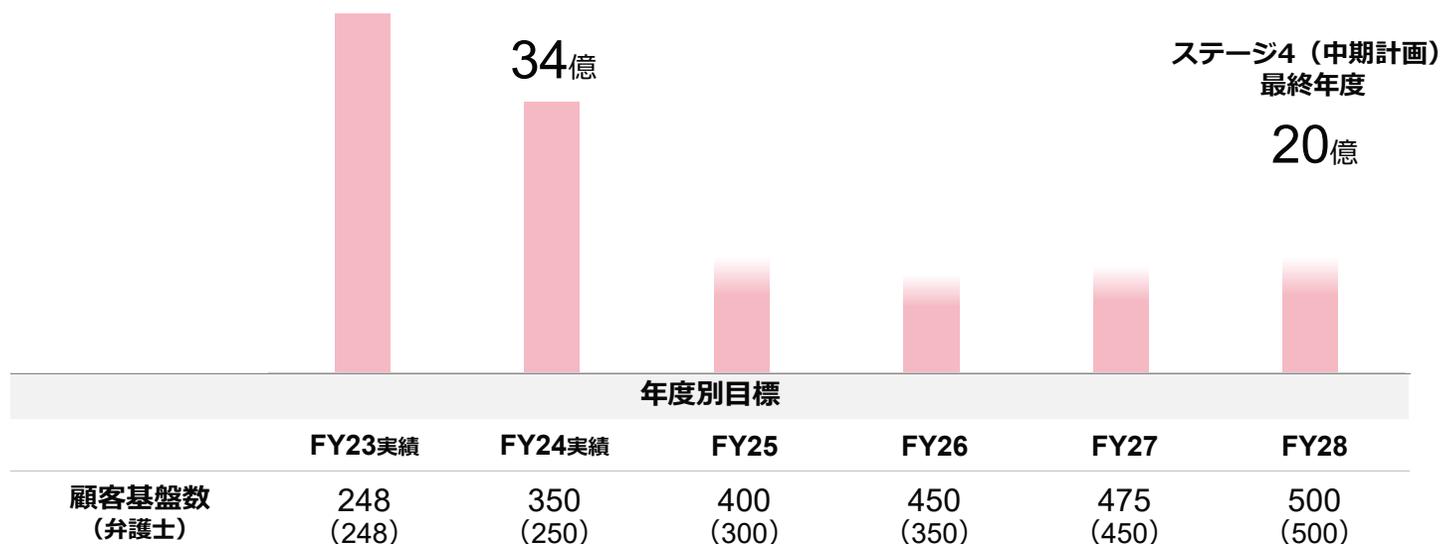
### ステージ4 達成のための施策

- ✓ アーリーアダプター・官公庁への訴求を継続
- ✓ 営業施策：官庁や大手企業をターゲットに、包括契約（ライセンス+伴走支援）を前提としたプロジェクトの獲得
- ✓ ソリューションのアップデート：新機能の追加や定期的なアップデートをすることで、付加価値を向上
- ✓ さらなる国内市場活性化の為に、経済安全保障室立ち上げコンサルティングサービスを始動させ、経済安全保障における必要機能階層を定義し、データドリブンな意思決定を行うための総合的なサービス提供を推進していく
- ✓ リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る71%に達し、ステージ4までにリカーリング比率80%を目指す

\* 株式会社第一生命経済研究所「経済安全保障から経営を考える」を参考 ( ) は前回公表時の目標数字

## 6. リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 将来性とKPI - ⑨

- FY28売上高20億円維持を目指し、**顧客基盤数（弁護士）**をKPIに設定



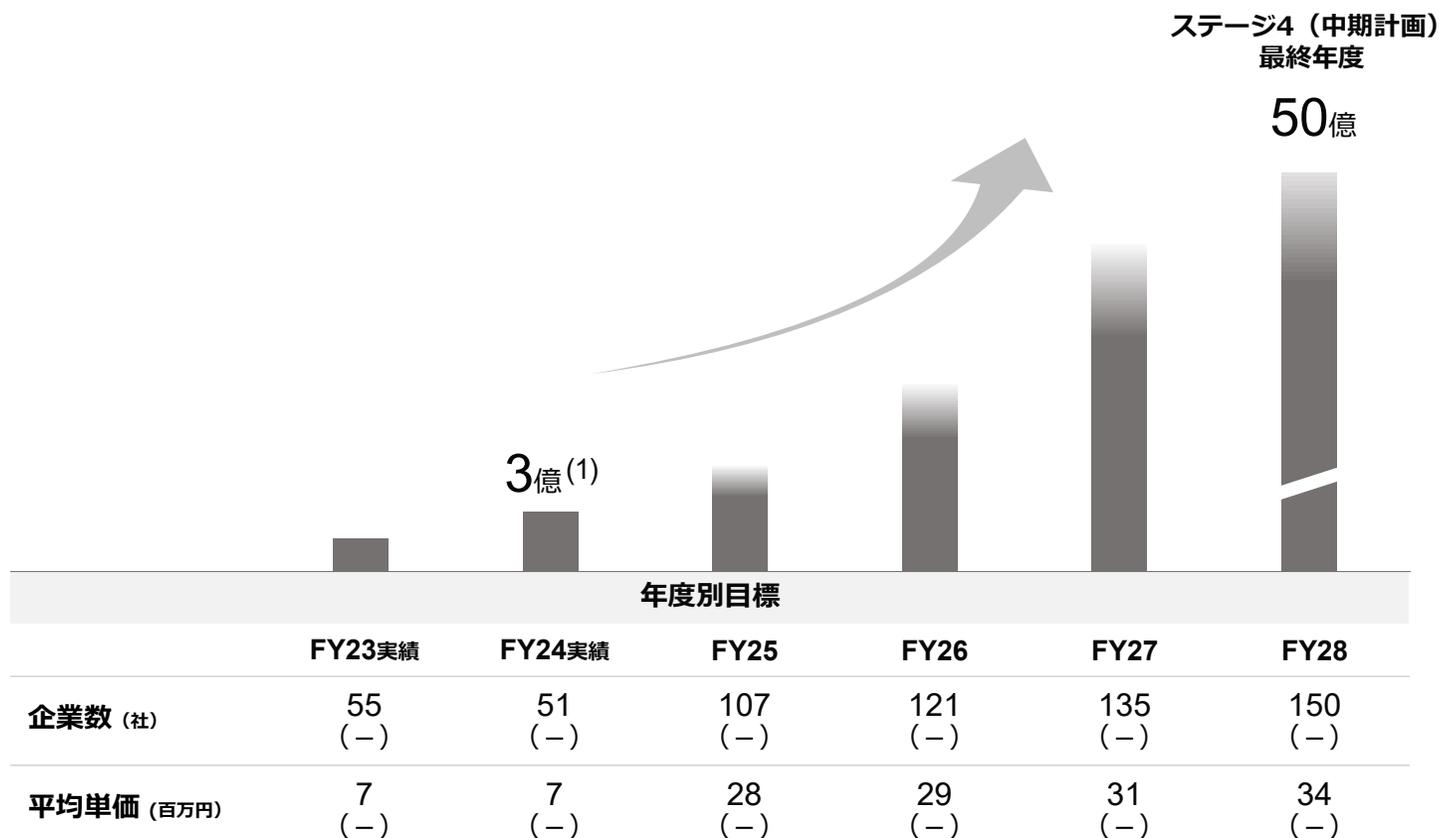
### ステージ4 達成のための施策

- ✓ FLLP・勉強会・ウェビナーなどを実施し、顧客基盤の構築・強化を継続
- ✓ 収益相関作用が高い組織/オペレーションを維持し、大型案件に左右されない堅実な事業運営

( ) は前回公表時の目標数字

## 6. DX事業 将来性とKPI - ⑪

➤ FY28売上高50億円達成を目指し、**契約企業数**、**平均単価**をKPIに設定



### ステージ4 達成のための施策

- ✓ 子会社化したアルネッツが提供するソリューションを通じた、企業内に分散するデータの統合およびデジタル化を実現し企業のDX推進のための基盤構築と、当社のプロフェッショナル支援ソリューションを組み合わせることで、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的な支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を実現

(1) BIプロフェッショナル支援のみの売上高 \*セグメント変更により、前回公表との比較が無いため(-)にしております

1. 会社概要
2. 企業理念
3. 業績ハイライト
4. FRONTEOの特化型人工知能（AI）「KIBIT」
5. 事業概要
  - i. ライフサイエンスAI事業
  - ii. リスクマネジメント事業
  - iii. DX事業
6. ステージ4のイメージ
7. リスク情報

以下には、成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性があるとして認識する主要なリスクを記載しております。各リスクはいずれも、顕在化の可能性は低～中程度、顕在化の時期は中長期と認識しております。その他リスクについては、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

項目	主要なリスク	対応策
<p>技術革新について</p>	<p>当社グループは、他社に先駆けてユーザーのビジネスにAIを実装してきたフロントランナーです。近年、当社グループが属する市場においては、急速な技術変化とサービス水準の向上が進んでおり、これに伴いクライアントのニーズも著しく変化しております。今後、クライアントのニーズの変化への対応や技術革新への対応が遅れた場合、当社グループの事業及び経営成績に重大な影響を与える可能性があります。</p>	<p>研究開発体制を保持、優秀な人材の登用、技術者育成を遂行することにより、技術開発力及び競争力の維持、向上に取り組んでおります。また、既存技術に対しても、最新技術の習得および適用を積極的に行うことで、運用体制や提供サービスの継続的な強化を図っています。これにより、顧客ニーズの多様化や市場環境の変化に柔軟に対応できる体制を構築しています。</p>
<p>法的規制について</p>	<p>当社グループが展開するライフサイエンスAI事業においては、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に準拠する必要があります。今後、他の分野においても、新たに法律や規制が制定された場合や、業界内で自主規制が求められた場合には、当社グループの事業上の計画等の見直しが必要となる可能性があります。その結果、これらに対応するための支出が増加する等、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。</p> <p>その他の事業においては、現時点で当社グループが事業を展開するにあたり、法的な規制は受けておりませんが、今後、事業に関連する法律、法令が変更された場合、当社グループの事業及び経営成績に影響を与える可能性があります。</p>	<p>各種法令改正の動向（国会審議、法令草案の開示、報道情報など）、裁判例を定期的に確認し、できるだけ早期に事業への影響を最小限に抑える方法を、弁護士等の専門家とともに検討しております。</p>



---

お問い合わせ先

株式会社FRONTEO  
email: [ir\\_info@fronteo.com](mailto:ir_info@fronteo.com)

#### 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

本資料のアップデートについて、今回は2026年6月を予定しております。